

エフサステクノロジーズの Linuxへの取組み

エフサステクノロジーズ株式会社

2025.4.1



エフサステクノロジーズ(以下FTI)の Linuxへの取組み

- 基幹業務システム領域にIAサーバが浸透

お客様のサポートに対する要件は、メインフレームやUNIXから**変化なし**

※ FTI調べ：回答数211社（複数回答あり）

① サポート力	:	27.6%
② 品質	:	24.6%
③ 価格	:	24.6%
④ 性能	:	14.7%

- IAサーバ+Linuxのオープンプラットフォームがボリューム領域からミッションクリティカル領域までをカバー
- FTIは、ミッションクリティカルLinuxに向けてメインフレームやUNIXで培った技術とノウハウをLinuxの機能強化とサポートに注入





ハードウェア

- PCサーバ PRIMERGY
徹底した評価・試験による
高信頼の業界標準サーバ
- 基幹IAサーバ PRIMEQUEST
メインフレームクラスの高信頼性を
実現したオープンサーバ

サポートサービス

- 大規模基幹システムサポート
経験を活かしたトータルサポート
- Red Hat社との戦略的提携
により、日本向けサポートの実現
- Platform Solution Lab
での動作・性能検証支援



Linux OS

- 開発コミュニティへの参画・協調により、
基幹システム向け機能
(FTIノウハウ) を実装
- Red Hat社およびインテル社との
戦略提携により、OS、CPU、
ハードウェア三位一体の機能強化を加速

ミドルウェア

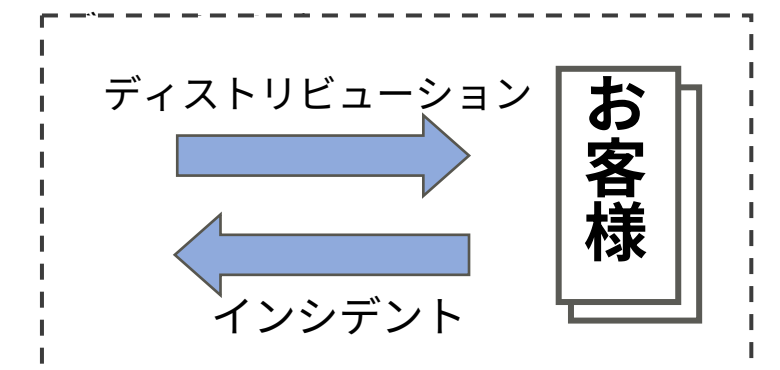
- 高信頼・高性能で実績のある
富士通ミドルウェアと連携
- 世界の有力ISVとの協調





開発・品質確保、成熟のプロセス

お客様発生インシデントをコミュニティで修正してWorld Wideのお客様に提供

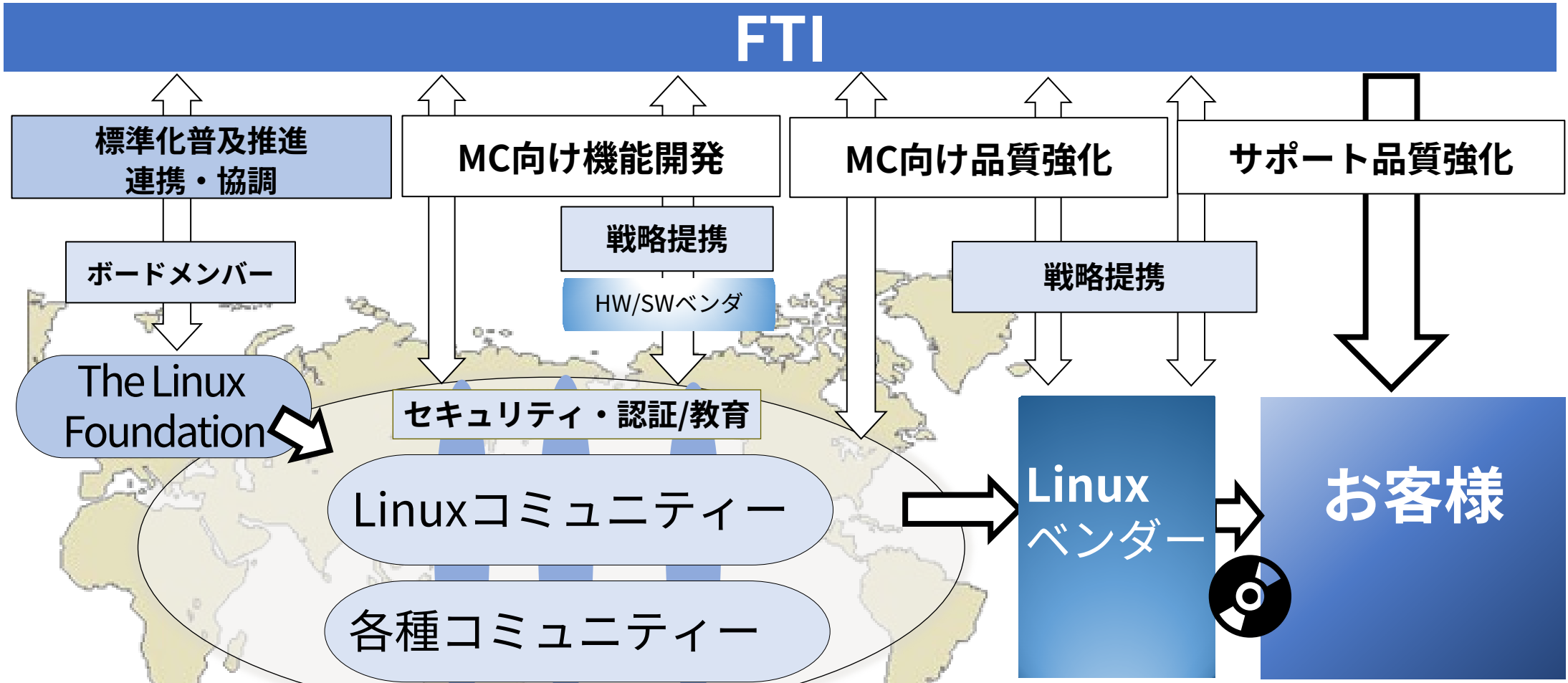


出荷後のインシデント対応

オープンソースコミュニティ参加各社の注力領域

- ディストリビューター : エンタープライズ機能強化
- プロセッサベンダー : 高信頼・高性能CPU有効活用
- サーバベンダー : エンタープライズ機能強化、自社プラットフォーム有効活用
- **FTI** : **+ミッションクリティカル向け機能強化**
- 組込み各社 : 製品の早期投入、保守の効率性
- ISV/IHV : 自社製品に適合するプラットフォーム強化(ECOシステム構成)

オープンソースコミュニティ開発を通してミッションクリティカル適用推進



※The Linux Foundation :

企業における基幹システム向け機能の開発支援、Linux適用範囲拡大、標準化を推進する非営利団体（Linux創始者 = Linus Torvalds氏が勤務）

Enterprise Linuxの開発モデルに合わせた取組み

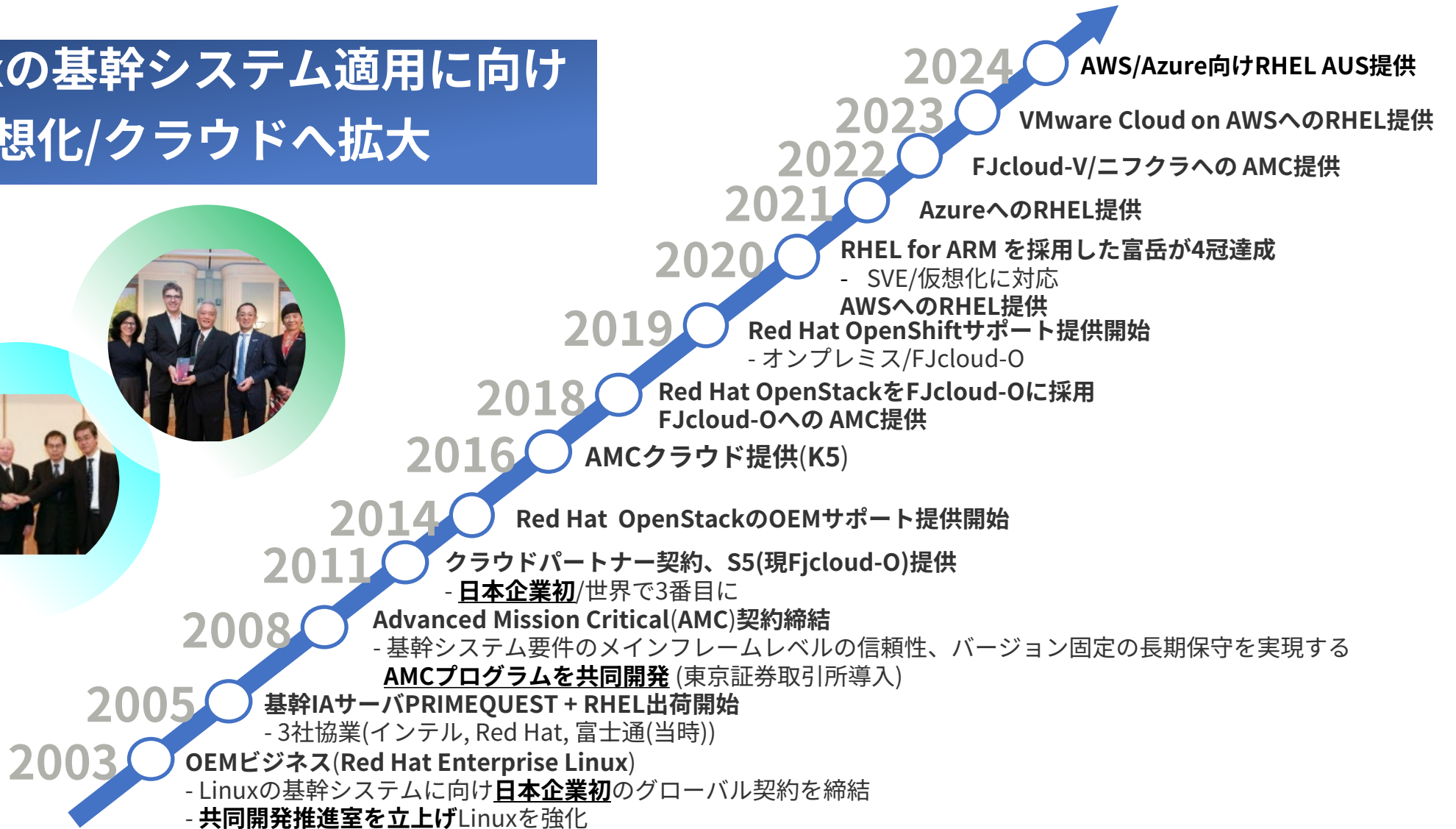


- 機能強化
 - 開発上流工程から参画して開発
 - 機能開発を計画し、継続的に強化：ミッションクリティカル必須機能は開発完了
- 品質強化
 - Red Hat社の品質確保プロセスに参画して品質を強化
 - 協業により、商用UNIXを凌駕する品質システムを構築済
- サポート品質強化
 - Red Hat社とのサービス品質強化の枠組みを構築済
 - 日本的運用スタイルに合わせたサポート商品を提供済（拡張プラスサポートなど）
 - 多数のお客様サポートの実績から蓄積したノウハウを活用

Linux機能強化

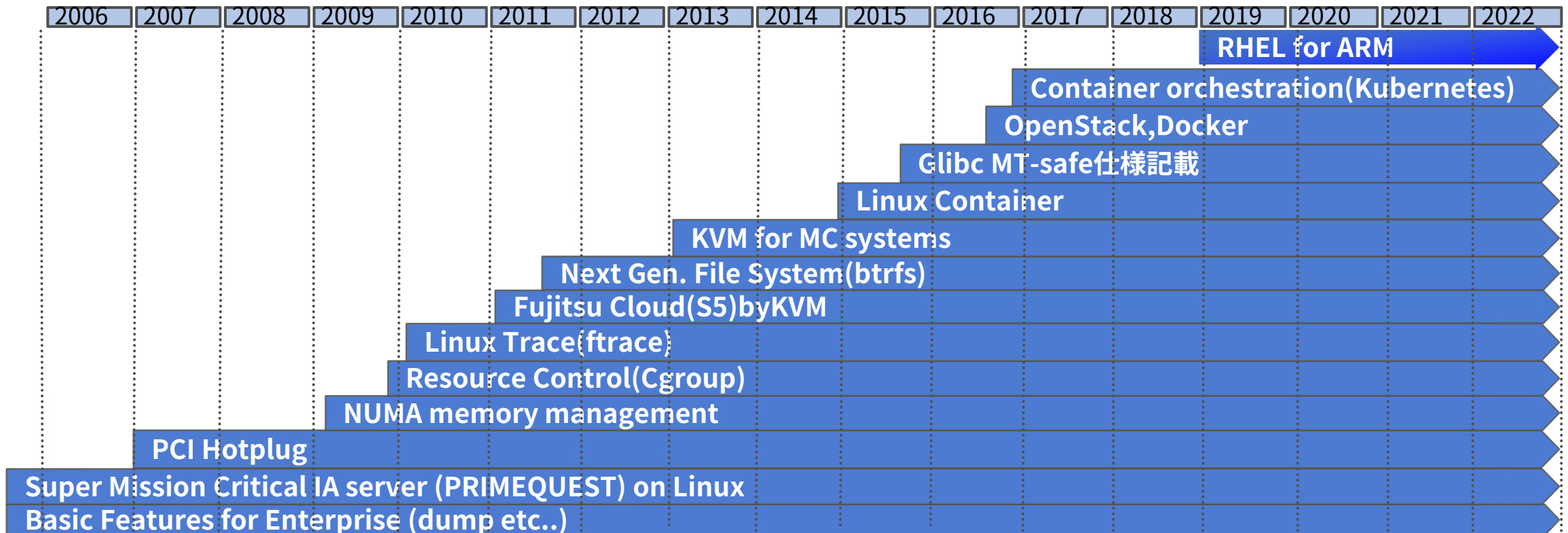
Red Hat製品とFTI（協業の歴史）

2003年 Linuxの基幹システム適用に向け
協業開始、仮想化/クラウドへ拡大



コミュニティ 積極参加・開発リード

- ミッションクリティカルの実現に注力、必須機能を計画開発
- 基幹系機能の実現のためにOSコア機能も開発
- これらの技術力をもって、Red Hatの製品のサポートを実施



FTIのコミュニティ開発参加の歴史

- コミュニティー標準機能として開発: グローバルに提供済
 - 拡張性の強化
 - 超大規模メモリ搭載時の性能強化、接続デバイス数の拡大など多数
 - 柔軟性・可用性の強化
 - 動的メモリ追加機能、資源管理機能開発など多数
 - 仮想化の強化
 - KVMの管理機能強化、メモリダンプ機能など多数
 - 保守性の強化
 - カーネルダンプ機能の開発、ダンプツール機能改善など多数
- 当社による強化: サーバやサポートとともに提供済
 - 保守性の強化
 - 障害調査情報採取、ファームウェアによるメモリダンプ採取など

FTIが中心となって開発、提供したミッションクリティカル向け機能

- 資源管理機能(cgroup)
 - 業務グループ単位にメモリ資源、I/O資源、CPU資源の配分を制御
 - 仮想化運用時のゲストへの資源割当ての基盤機能
- RAS機能の強化
 - CPU機能に対応したメモリエラーリカバリー機能、PCIeリカバリー機能など
- カーネル内トレース機能(fttrace)
 - カーネル内部で発生する様々なイベント情報を、低オーバーヘッドで記録
 - 万が一のトラブルを原因究明するための強力なツール
 - 効率的で、より深い性能分析

FTIが中心となって開発、提供したミッションクリティカル向け機能

- KVM(Linuxサーバ仮想化)機能
 - 基幹業務システム向けに信頼性向上、ミドルウェア連携機能の強化
- ダンプ機能
 - サーバ連携による保守性の強化
 - 確実なメモリダンプ採取により、障害調査の長期化要因を排除
- MT-Safe機能
 - Glibc MT-safe仕様記載
 - マルチスレッドプログラムを開発するユーザ向け情報として、MT-Safe情報を調査
 - Linuxの標準仕様として正式にマニュアル化。RHEL7より標準実装

Linux品質強化

Enterprise Linux開発エコシステムを活用

- RHELの品質実現の源泉：エンタープライズ利用に十分な品質
 - Red Hat社のQA（品質保証）
 - 出荷前評価工程での協業各社からのフィードバック
 - World Wideの膨大なお客様からのフィードバック
- FTIの取組み: ミッションクリティカル適用を目指した品質強化に着目
 - 開発上流工程
 - コミュニティエンジニア向けに公開テストセット強化
 - RHEL開発工程
 - Red Hat社開発者向けテストセット強化
 - RHEL出荷前評価工程
 - FTIのお客様に近い負荷での品質強化
 - 富士通ミドルウェアも積極的にテストに活用
- 基幹業務システムに最適な品質確認

機能搭載：FTIのコミュニティーでの開発力を背景に協業

Red Hat社の幹部を交えたエンジニアリング協業でRHELに機能搭載を実現

- プロダクト・エンジニアリング責任幹部を交えた定例レビュー
- コミュニティーでの成果物を計画的にRHELに搭載
 - ロードマップ共有、弊社オンサイトエンジニア
- 将来のLinux、コミュニティー開発モデル・品質

品質強化：FTIのサポートボリュームを背景に協業

Red Hat社のサポート責任幹部を交えた定例レビューで基幹業務システム品質実現

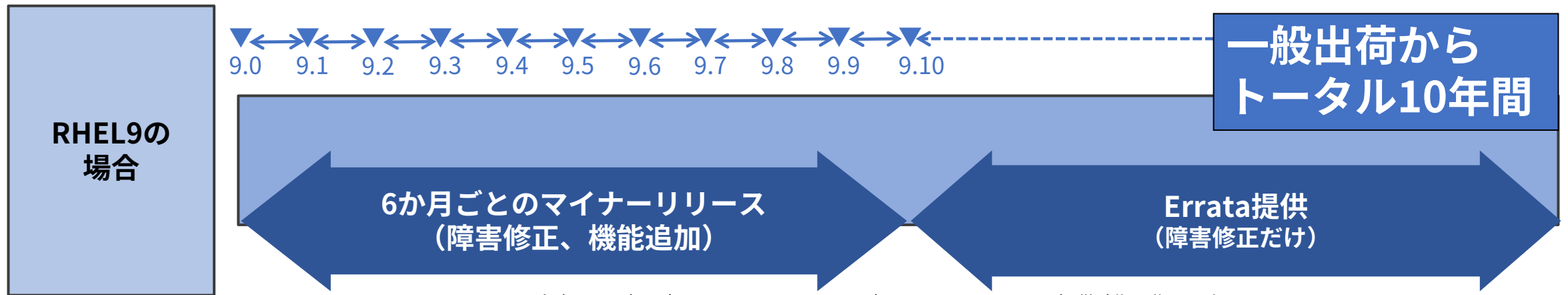
- より早いタイミングでの出荷前検証で高い品質を実現
 - ワークロードは、FTIのお客様環境に近づけた検証
- 修正提供プロセス改善による提供速度向上の実現
 - FTIの強い開発力を活かした修正提供プロセス
- FTIのお客様に合わせたサポートサービスを実現
 - 新しいサービス商品の提供(拡張サポート^{*1}、拡張プラスサポート^{*2})

*1 拡張サポート :マイナーリリース適用を計画的に行える商品

*2 拡張プラスサポート :ミッションクリティカル向け、同一マイナーリリースを長期間利用可能な商品

Linuxサポート品質強化

1年目 22/5~23/4	2年目 23/5~24/4	3年目 24/5~25/4	4年目 25/5~26/4	5年目 26/5~27/4	6年目 27/5~28/4	7年目 28/5~29/4	8年目 29/5~30/4	9年目 30/5~31/4	10年目 31/5~32/4
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-------------------



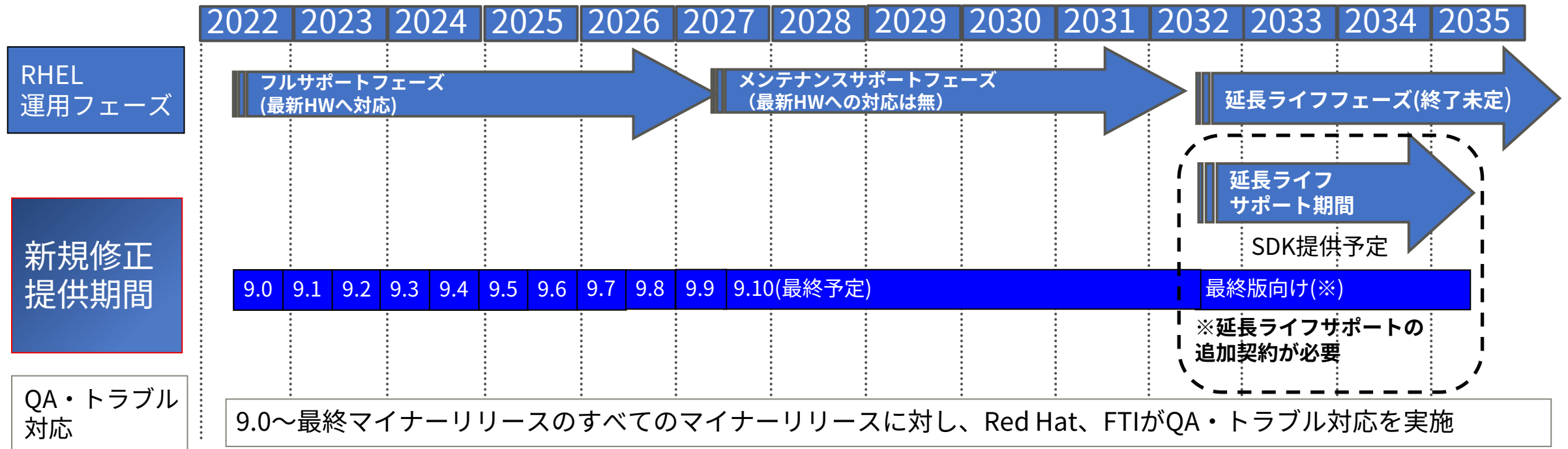
※これは、アップデートの考え方を示したものであり、各マイナーリリースの提供時期、期間を保証するものではありません。

- 障害修正適用による予防的な保守で安全性確保
 - 最新マイナーリリース（通常は6か月ごとの障害修正や機能改善）の適用により、予防保守を実施
 - システムの安定稼動には、最新のマイナーリリースの適用が必須
- トラブル発生時には、Errataまたはお客様ごとの修正で対応
 - Red Hat社は、最新マイナーリリースに対してだけ修正を提供

メインフレームのような予防的修正適用のしやすさが必須

- AFR(Annual Failure Rate)は、現状の20分の1にできる可能性
 - 基幹業務システムに適用できる品質に到達。しかし、お客様で発生するトラブルの95%以上は、既知障害が原因
 - 予防保守を組み込んだライフサイクルの設計が重要。しかし、予防的な修正適用の運用は、要する時間とコストに阻まれ、十分ではない
 - 機能追加を含む予防的保守は、運用中システムでの効率的な検証作業が困難
- FTIがRed Hat社の既存サポート(基本サポート)に対し、新たなサポートプログラムを提案
 - 拡張サポートによるマイナーリリース適用期間の延長(EUS)
 - 拡張プラスサポートによるマイナーリリースアップの不要化(AUS)
 - 他ベンダーも追従しプログラムに参加
 - 一部(EUS)は、グローバルプログラム済

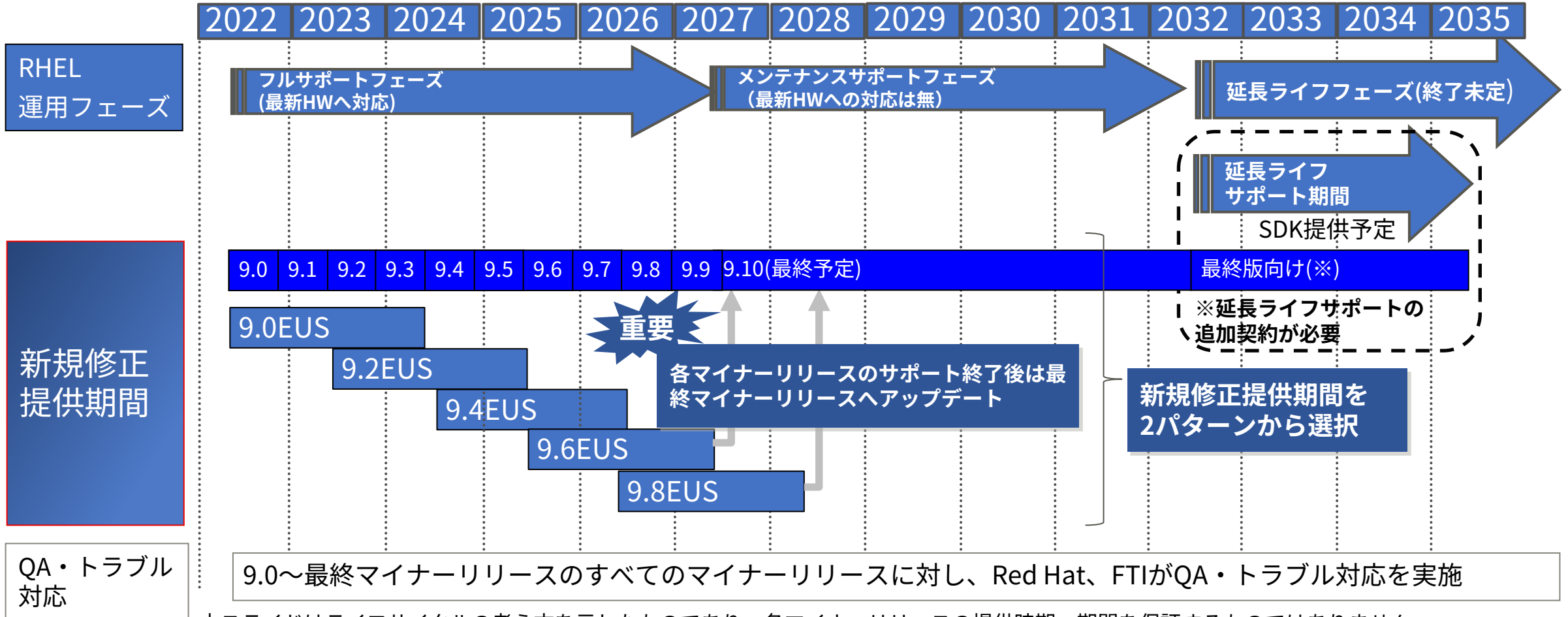
最新マイナーリリースに対し新規修正を提供



本スライドはライフサイクルの考え方を示したものであり、各マイナーリリースの提供時期、期間を保証するものではありません。

拡張サポートによるLinux保守

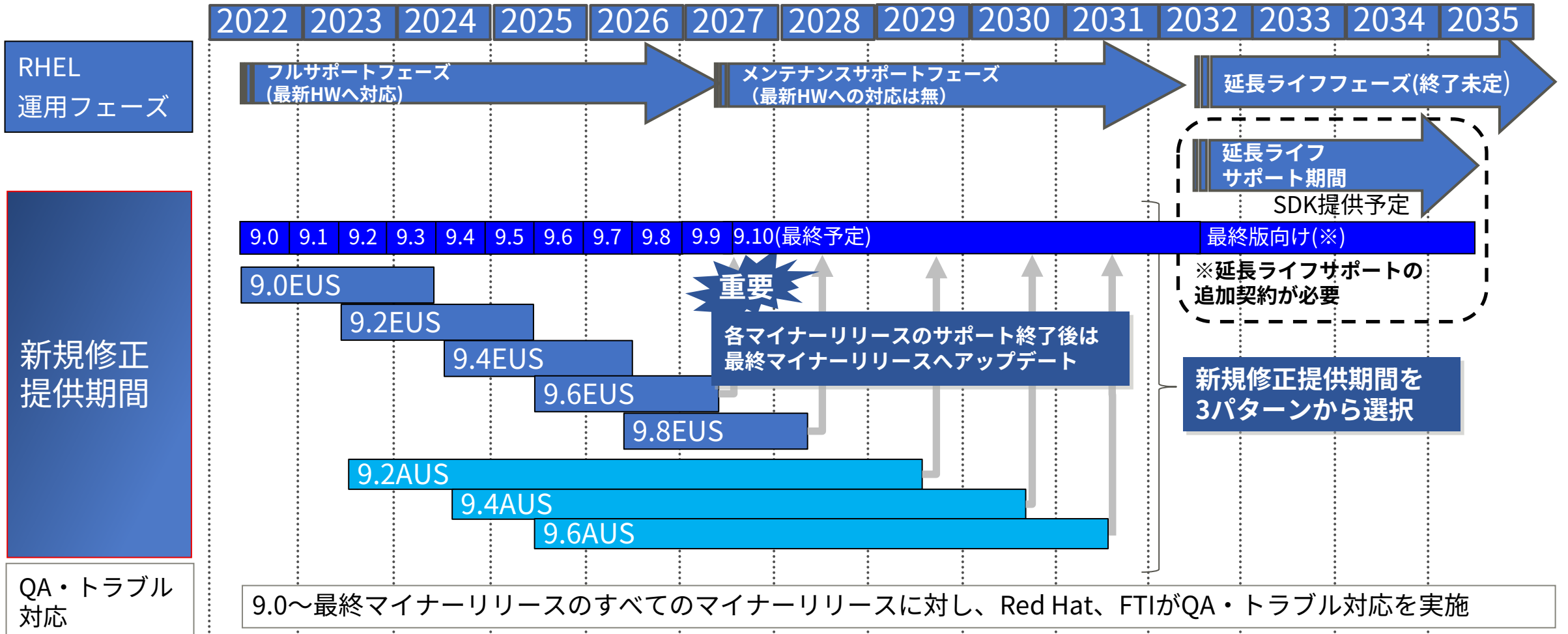
特定マイナーリリースへの新規修正が約2年になる修正提供パターンが追加



本スライドはライフサイクルの考え方を示したものであり、各マイナーリリースの提供時期、期間を保証するものではありません。

拡張プラスサポートによるLinux保守

特定マイナーリリースへの新規修正が約6年になる修正提供パターンが追加



本スライドはライフサイクルの考え方を示したものであり、各マイナーリリースの提供時期、期間を保証するものではありません。

ミッションクリティカルなLinuxの提供

- 世界No.1のLinuxディストリビューター
- ミッションクリティカル志向でFTIとベクトルが一致

サポートサービス改善協業

- 長期間サポートストリーム、高いSLA：拡張プラスサポート
 - 年1回の計画保守によるUpdate適用：拡張サポート
- お客様からのフィードバックにより実現

世界トップクラスの強い協業関係で
最適なプラットフォームとして提供



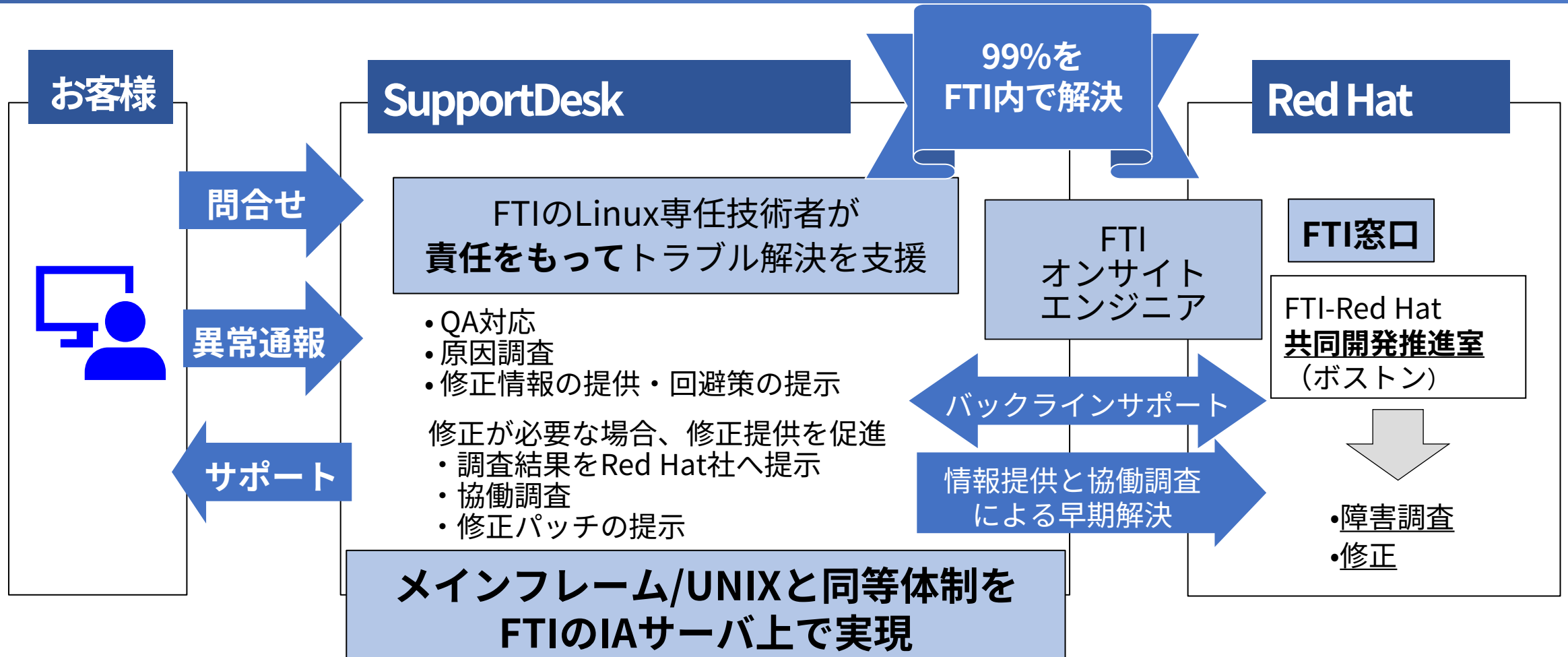
エンジニアリング協業

プロダクト・エンジニアリングの幹部と定例
→FTIの高い技術力が基盤

ビジネス推進協業

両者のエクゼクティブ間で定例
→FTIの多数のサポートボリュームが基盤

FTIがフロントに立って、責任をもってお客様をサポート
Red Hat社がバックラインとして強かにFTIをサポート



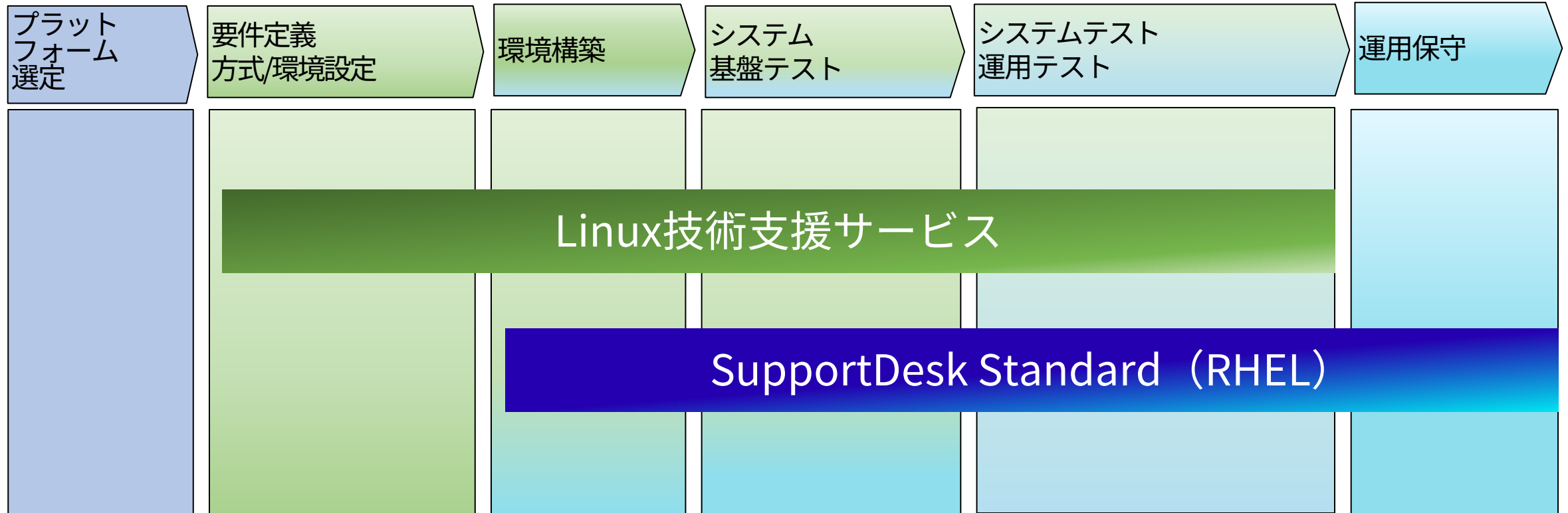
① Linux OSのトラブルの99%超は、FTI内で解決

② ハードウェアからソフトウェアまでをワンストップでサポート

③ 基幹業務システムに必要な不可欠な長期間サポート

RHELサポート・サービス商品

システム設計から保守まで
システムの工程に合わせたサービスを品ぞろえ



RHELサポート商品 (オンプレミス向け)

RHELを利用するためにはサポート契約が必要



- RHELは、サポート契約にプログラムを含めて提供する形態
(サブスクリプション契約*1)
- RHELをSupportDesk Standardのサポート商品として提供

項目		RHEL	一般的な商用ソフトウェア
購入	ライセンス (使用権)	無償	ソフトウェア販売
	プログラム	サポート契約 (SupportDesk)	
	QAトラブル対応		サポート契約 (SupportDesk)
プログラム入手方法			媒体購入
サポート契約		システム構築時から 必須	任意 (お客様のご希望時期から)

*1 サブスクリプションの登録の前に、Red Hat社の「Red Hat エンタープライズ契約」(<https://www.redhat.com/en/about/agreements>)にご同意いただく必要があります。
必ず事前にご確認ください。

お客様システムの運用形態に合わせた商品を提供

- サポート内容が異なる「基本」「拡張*1」「拡張プラス」3商品を提供
- 対象サーバはPRIMERGYまたはPRIMEQUEST

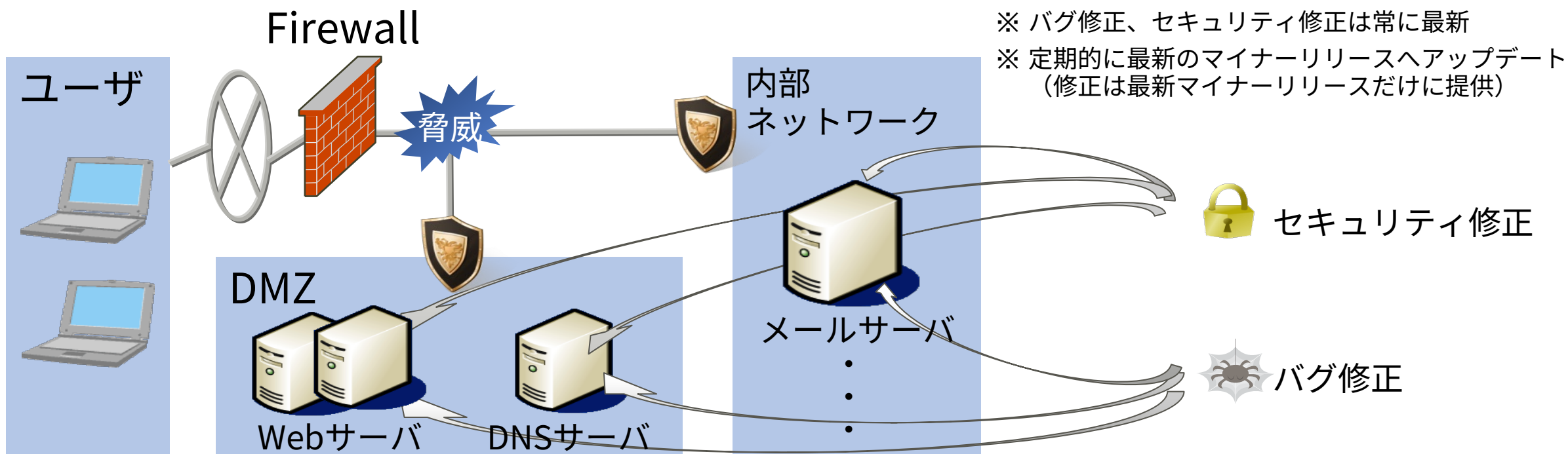
	PRIMERGY 	PRIMEQUEST 
「RHEL」サポート商品		
基本サポート	提供 複数年 (3/4/5年)	—
拡張/標準サポート (EUS)	提供 複数年 (3/4/5年)	提供
拡張プラスサポート (AUS)	提供*2	提供

*1 PRIMEQUEST向けには、「拡張サポート」を「標準サポート」の名称で提供しています。

*2 対象となるハードウェア構成に制限があります。対象となるハードウェアの最新情報及び構成制限の詳細については、「Linuxサポート商品」の"拡張プラスサポート構成情報 (PRIMERGY)"(<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/os/linux/concept/support/product/#aus>)をご参照ください。なお、対象外の構成製品を選択した場合は、システム全体が本サービスの対象外となりますのでご注意ください。

タイムリーな修正適用を必要とするシステム向け商品

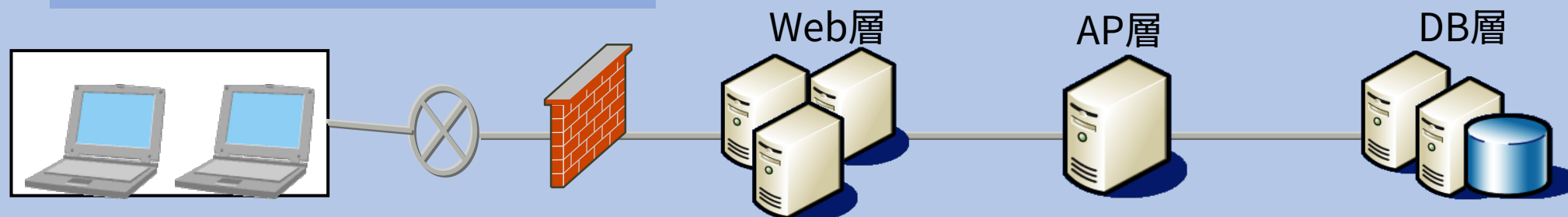
- 常に最新のバグ、セキュリティ修正の適用を必要とするWebサーバやメールサーバなどのセキュリティを重視するシステムに最適
⇒最新の修正適用で安心してシステムを運用



計画的なアップデートを必要とするシステム向け商品

- 業務の継続性を求められるシステムにおいて、修正の適用時間は確保できてもアップデートの作業時間を確保することは困難
⇒限られた計画停止のタイミングでアップデートする必要あり

連続運用、計画停止年1回



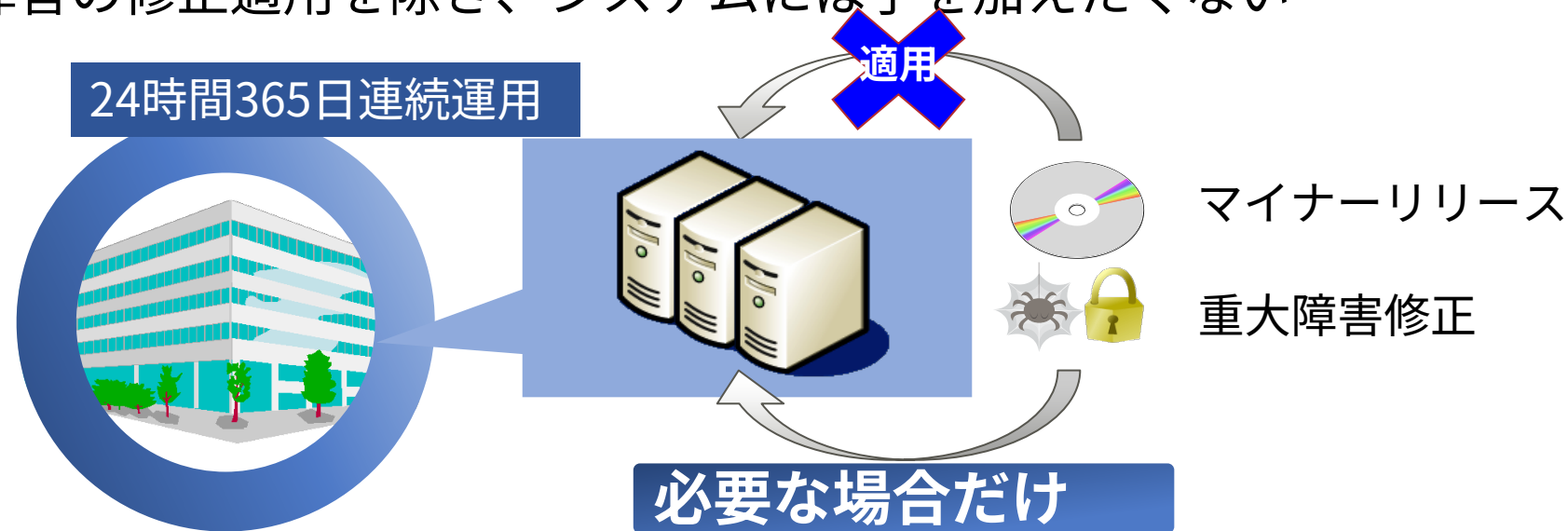
特定マイナーリリースに対する修正※提供期間がマイナーリリースのリリースから2年間に延長（通常は6か月間）
⇒計画的なアップデート運用が可能に

※提供される修正は、重大および重要セキュリティ修正と一部の緊急優先度バグ修正です。



安定運用、長期利用が求められるシステム向け商品

- 高い信頼性が求められる社会システムや、企業の基幹業務システムは、重大な障害が発生した場合を除き止められない
⇒重大障害の修正適用を除き、システムには手を加えたくない



同一マイナーリリースを最大6年間利用可能
⇒重大障害に対する修正※が提供され、安心して利用可能

※提供される修正は、重大および重要セキュリティ修正と一部の緊急優先度バグ修正です。

項目	内容	基本サポート	拡張サポート	拡張プラスサポート
問題解決支援	仕様、操作方法に関する質問や、ソフトウェアが正常に動作しない場合の原因調査、回避措置に関する質問・相談	○	○	○
SupportDesk-Webでの情報提供	ご契約ユーザ専用ホームページで修正情報や技術情報、セキュリティ情報などを提供	○	○	○
Red Hat カスタマーポータル ^{*1} のご利用IDを提供				
プロダクトID	Red Hat カスタマーポータルを利用するためのID	○ (EUS ^{*2} サービスを含まない)	○ (EUS ^{*2} サービスを含む)	○ (EUS ^{*2} サービスを含む)
AUS-ID	Red Hat カスタマーポータルでAUSを利用するためのID	—	—	○
修正提供				
一括修正	マイナーリリースを適用するツール	○	○	○
応急修正	新規障害で緊急を要する場合の修正	—	○	○

*1 Red Hat社のサポート用Webサイト RHELのサポートとして、主に以下のサービスを提供
 - 重大障害修正やセキュリティ修正の取得
 - OSのインストールや一括修正の前準備として、インストールイメージ(ISOファイル形式)のダウンロード

*2 特定マイナーリリースの公開日から2年間、修正が提供される(通常は、6か月間)

- **物理環境**で利用する場合
 - 「RHEL Server 2CPU/1ゲスト」を選択
- 仮想環境でハイパーバイザに **KVM** を利用する場合

名称	ホスト機能 (*1)	ゲスト機能 (*2)	購入単位
RHEL Server 2CPU/1ゲスト	○	1	2CPU/サーバ単位
RHEL Server 2CPU/4ゲスト	○	4	2CPU/サーバ単位
RHEL Server 2CPU/ゲスト無制限	○	無制限	2CPU/サーバ単位

- 仮想環境でハイパーバイザに **VMware/Hyper-V/Nutanix AHV^{*4}** を利用する場合

名称	ホスト機能 (*1)	ゲスト機能 (*2)	購入単位
RHEL VDC 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用) (*3)	×	無制限	2CPU/サーバ単位
RHEL Server 2ゲスト (ゲスト専用)	×	2	2ゲスト単位

*1 ハイパーバイザとしてRHEL仮想マシン機能 (KVM) を使用する権利。

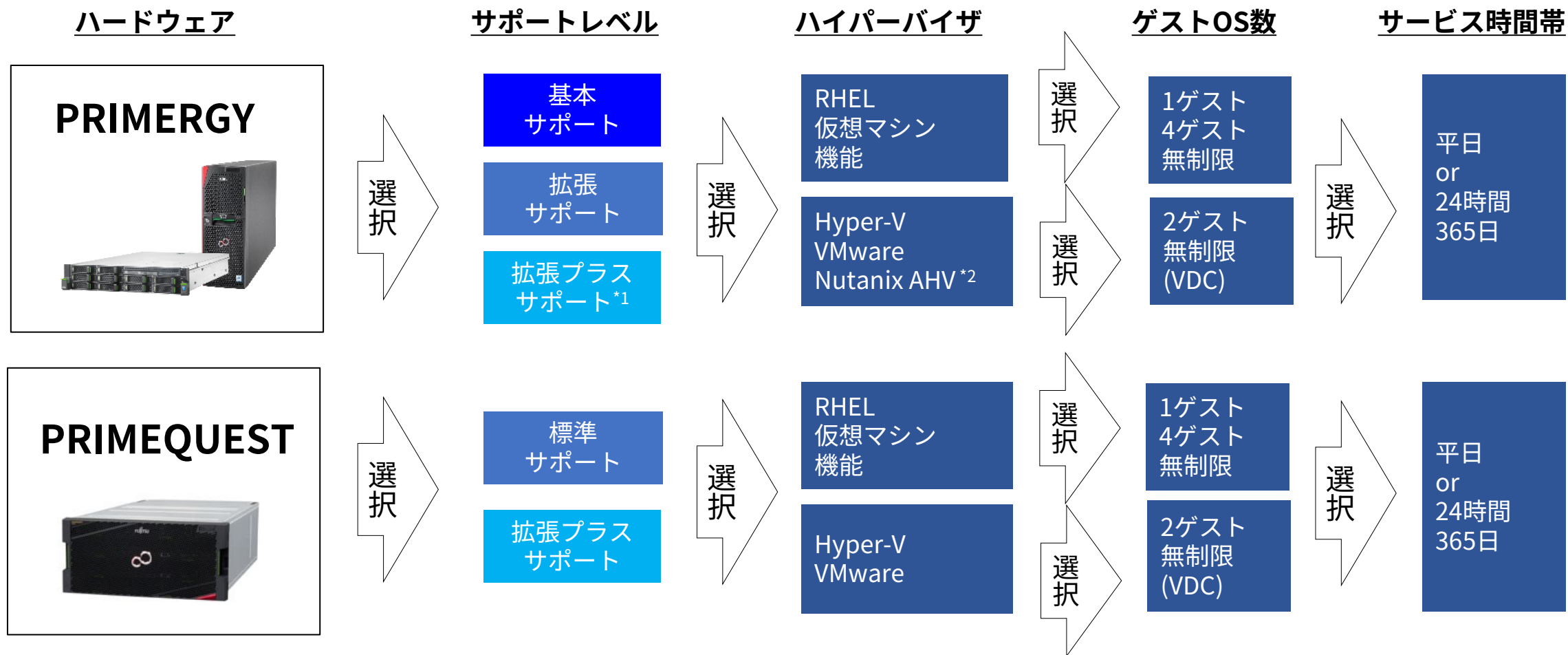
同一サーバ/パーティション上でWindows等他OSを含めた同時稼働できるゲスト数に制限はありません。

*2 ゲストOSとしてRHELを利用する権利数。

*3 Red Hat Enterprise Linux for Virtual Datacenters の略。ホスト権利を含まないゲスト権利のみの商品。

*4 PRIMEFLEX for Nutanix (旧Nutanix on PRIMERGY)での利用に限定。

サポート商品の選択







*1 対象となるハードウェア構成に制限があります。対象となるハードウェアの最新情報及び構成制限の詳細については、「Linuxサポート商品」の"拡張プラスサポート構成情報 (PRIMERGY)"(<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/os/linux/concept/support/product/#aus>)をご参照ください。なお、対象外の構成製品を選択した場合は、システム全体が本サービスの対象外となりますのでご注意ください。

*2 PRIMEFLEX for Nutanix (旧Nutanix on PRIMERGY)での利用に限定されています。

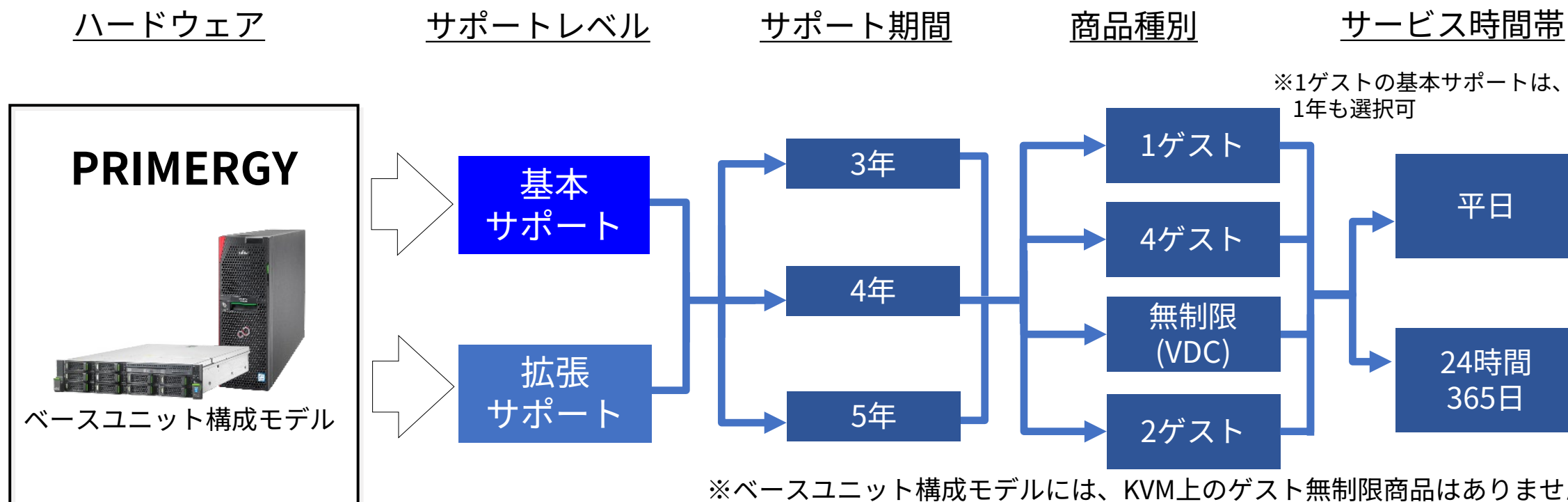
お客様の契約形態に応じた複数の選択肢を用意

- SupportDesk契約に加えて、ハードウェア購入時にLinuxサポートを同時購入できる「ベースユニット構成モデル Linuxサポート」や「RHELサポートセット」を提供

<h3>PRIMERGY</h3> 	<h4>SupportDesk Standard</h4>  <p>or</p> <p>基本 拡張 拡張プラス</p>	<h4>ベースユニット構成モデル Linuxサポート</h4> <p>ハードウェア購入時に オプションでLinuxサポートを選択 (サーバライセンスとOSサポート)</p> <p>基本 (1/3/4/5年) 拡張 (3/4/5年)</p> <p>※1年は「2CPU/1ゲスト」だけ</p>
<h3>PRIMEQUEST</h3> 	<h4>SupportDesk Standard</h4>  <p>or</p> <p>標準 拡張プラス</p>	<h4>RHELサポートセット</h4> <p>ハードウェアと同時購入 (サーバライセンスと1年間のOSサポート)</p> <p>標準</p>

ベースユニット構成モデルでは複数年サポートを選択可

- 「基本サポート」「拡張サポート」共に3/4/5年から選択可
- 「基本サポート」の2CPU/1ゲストは1年も選択可
- 平日サポート、24時間サポートも選択可



RHELサポート商品 (クラウド用ゲスト向け)

- パブリッククラウド毎のSupportDesk RHELサポート提供可否は下記となります。

区分	対象	SupportDesk RHEL サポート提供	提供サポートレベル		
			基本	拡張	拡張プラス
富士通 ブランド	FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O	○ 提供	○	○*4	○
	FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-V	○ 提供	×*1	×	○
	FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-ベアメタル	○ 提供*2	○	○	○
	FUJITSU Hybrid IT Service for AWS	○ 提供	○*3	○	○
	FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure	○ 提供	○*3	○	○
他社	Amazon Web Services (AWS)	○ 提供	○*3	○	○
	Microsoft Azure	○ 提供	○*3	○	○

- FJcloud-O, FJcloud-V, FJcloud-ベアメタルの商品情報は下記をご参照ください。

- FJcloud-O

<https://doc.cloud.global.fujitsu.com/lib/common/jp/price-list/fjcloud/-o/iaas-os/>

- FJcloud-V

<https://doc.cloud.global.fujitsu.com/lib/common/jp/price-list/fjcloud/-v/>

- FJcloud-ベアメタル

<https://doc.cloud.global.fujitsu.com/lib/common/jp/price-list/fjcloud/-baremetal/baremetal-os/>

*1 クラウドサービス提供元のRHELサポート等をご利用ください

*2 オンプレ商品の持ち込み前提

*3 拡張サポートに基本サポートを含む

*4 東日本3/西日本3リージョンのみ

• サポート範囲

[FUJITSU Hybrid IT Service for AWS / Amazon Web Services (AWS)] (*1)

インスタンスタイプ(*2)	サイズ		RHELサポート版数 (*6)
	vCPU	メモリ(GiB)	
T3, M5, C5, R5	2~64	2~256 (*3)	RHEL7 (RHEL7.6以降) RHEL8 (RHEL8.2以降)
M6i, C6i, R6i	2~64	4~256	RHEL8 (RHEL8.4以降)
M7i	2~192 (*4)	8~768 (*5)	RHEL8 (RHEL8.8以降) RHEL9 (RHEL9.2以降)
C7i	2~192	4~384	
R7i	2~192	16~1,536	
M7i-flex	2~32	8~128	
R7iz	2~128	16~1,024	

(*1) 国内リージョンのみが対象です。

(*2) 各インスタンスタイプにおいて、レガシーBIOSのみサポート対象です。

(*3) RHEL8の場合は、最小メモリサイズは4GiBです。

(*4) RHEL8の場合は、最大vCPU数は96です。

(*5) RHEL8の場合は、最大メモリサイズは384GiBです。

(*6) AUSはRHEL9.2以降が対象です。AUSの対象マイナーリリース詳細はp.22「拡張プラスサポートによるLinux保守」をご参照ください。

• 利用条件

- RHELイメージは、SDK-Webから提供するRHELイメージを使用してください。
 - AWSが提供するRHELイメージは利用できません。
 - お客様作成のイメージをご利用予定の場合は、事前に商談窓口(付録Aの商談支援体制)に相談してください。
- RHEL修正パッケージは、FTIが提供する修正配布サーバから入手してください。
 - AWSが提供する修正配布サーバ(RHUI)は利用できません。

サポート範囲

[FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure / Microsoft Azure] (*1)

仮想マシンシリーズ (*2)	サイズ		RHELサポート版数 (*5)
	vCPU	メモリ(GiB)	
Av2, Bs, Fsv2	2~64	4~144	RHEL8 (RHEL8.2以降)
Dv4, Dsv4, Ddv4, Ddsv4	2~64	8~256	RHEL8 (RHEL8.2以降) RHEL9 (RHEL9.2以降)
Dv5, Dsv5, Ddv5, Ddsv5 (*3)	2~96	8~384	
Ev4, Esv4, Edv4, Edsv4	2~80	16~504	
Ev5, Esv5, Edv5, Edsv5 (*3)	2~104	16~672	
Dlsv5, Dldsv5	2~96	4~192	
Bsv2 (*4)	2~32	4~128	RHEL9 (RHEL9.2以降)

(*1) 国内リージョンのみが対象です。

(*2) 各シリーズにおいて、RHEL8は第1世代VMのみ、RHEL9は第2世代VMのみサポート対象

(*3) Dv5, Ddv5, Dsv5, Ddsv5, Ev5, Edv5, Esv5, Edsv5を使用する場合、RHEL仮想マシン配備後に追加の設定が必要です。

設定手順の詳細は「SupportDesk パブリッククラウド向けRHELにおけるサポート範囲」を参照してください。なお、下記以外の構成をご利用予定の場合は、事前に商談窓口(付録A.の商談支援体制)に相談してください。

パートナー様向け：https://fujitsu.sharepoint.com/sites/jp-server/media/products/os_virtual/linux/sales/support-policy/rhel/rhel_public_cloud_diff-svpr.pdf

社内向け：https://fujitsu.sharepoint.com/sites/jp-server-internal/media/products/os_virtual/linux/sales/support-policy/rhel/rhel_public_cloud_diff-svpr.pdf

(*4) 第2世代VMのみ利用可

(*5) AUSはRHEL9.2以降が対象です。AUSの対象マイナーリリース詳細は p.22 「拡張プラスサポートによるLinux保守」をご参照ください。

利用条件

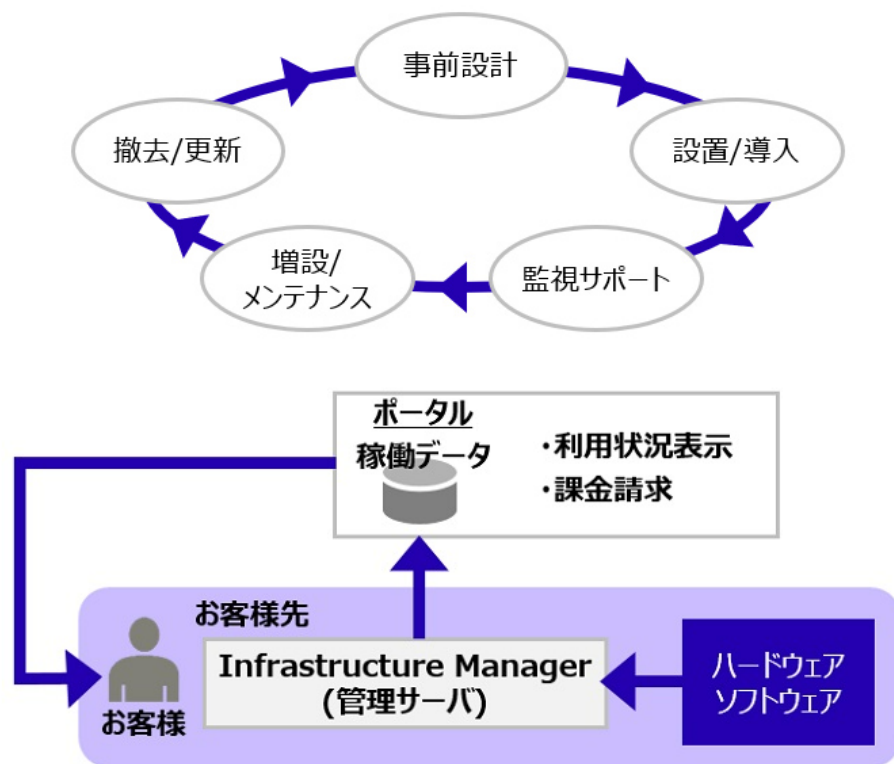
- RHELイメージは、SDK-Webから提供するRHELイメージを使用してください。
 - Microsoft Azureが提供するRHELイメージは利用できません。
 - お客様作成のイメージをご利用予定の場合は、事前に商談窓口(付録A.の商談支援体制)に相談してください。
- RHEL修正パッケージは、FTIが提供する修正配布サーバから入手してください。
 - Microsoft Azureが提供する修正配布サーバ(RHUI)は利用できません。

RHELサポート商品
(uSCALE サブスクリプションモデル向け)

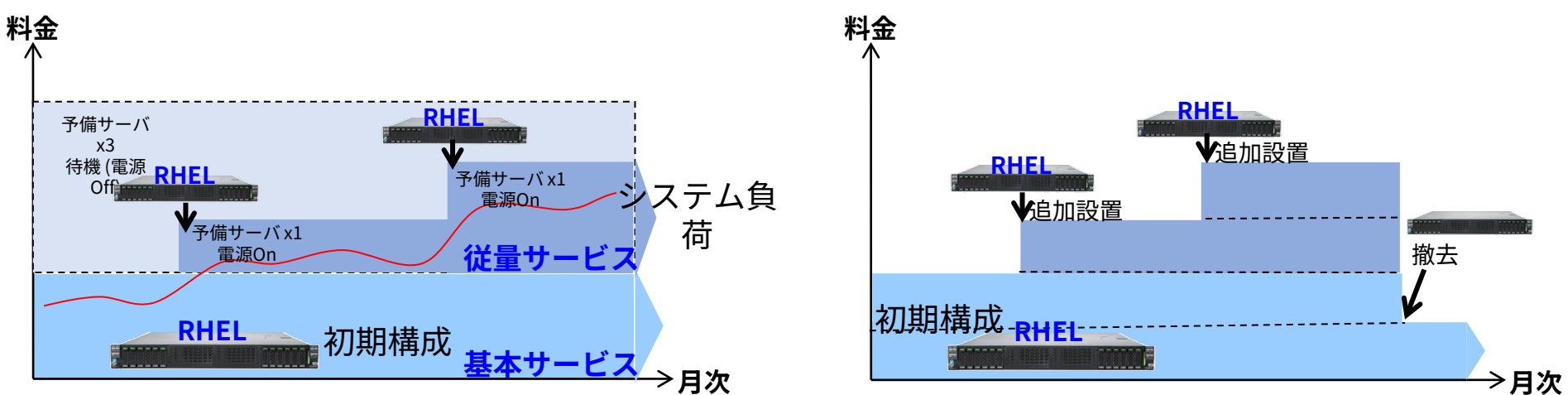
PRIMERGY/PRIMEQUESTのuSCALE サブスクリプションモデルのオプションとして uSCALE RHELサブスクリプションモデルを提供

ご参考：<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/subsc.html>

従来型オンプレシステム同様にサーバ、ストレージ等の機器を保守・運用支援込みで利用出来る
月額料金サービス

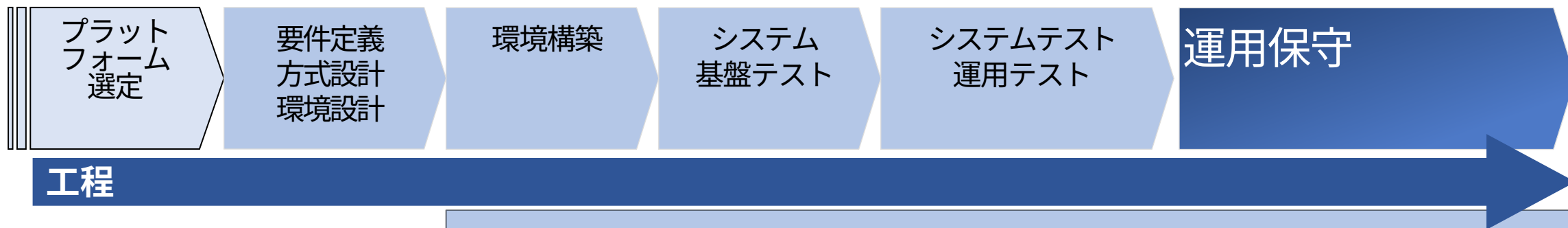


- **導入前の事前アセスメント**
 - お客様環境の稼働情報を調査・分析し、精度の高いサイジングを実施
- **お客様のご指定場所に機器一式を設置**
 - 契約終了後には機器の撤去をFTIが実施
- **クラウドサービスの様に月額払い**
 - 設置・稼働する機器構成に応じた月額料金
 - 基本料金とリソース使用量、オプションサービス利用に応じた従量料金の合計
- **安定稼働を支援**
 - 監視、サービスポータルの提供
 - 機器増設、ハードウェアのメンテナンスもFTIが実施
- **リプレース時のコストを低減**
 - 新旧システムの利用が重複する期間は旧システムのハードウェアに対するお支払いが不要

対象OS	Red Hat Enterprise Linux 8, 9 ※OSインストールにはOSインストールサービスの利用が必要です
商品体系	<ul style="list-style-type: none"> 物理環境用「物理」商品 仮想化(Hyper-V/Nutanix AHV/KVM)環境用「VDC」商品
サービスレベル	<ul style="list-style-type: none"> 拡張サポート(PRIMERGY)/標準サポート(PRIMEQUEST) 拡張プラスサポート(PRIMERGY/PRIMEQUEST)
課金単位	RHELがインストールされた物理サーバ単位, 月額
料金体系	<ul style="list-style-type: none"> 利用量に応じた課金 

RHEL関連商品・サービス商品

Linuxシステムの設計・構築、テストフェーズを強力にバックアップ



Linux技術支援サービス

Linuxテクニカルデスクサービス（設計技術支援）

Linux設計診断支援サービス（設計値レビュー）

Linux性能評価支援サービス（システム性能評価）

Linuxサポート(SupportDesk)

※Red Hat Enterprise Linuxのサブスクリプション(プロダクトID)は、お客様にてご用意ください。

※Linux技術支援サービスは、オンサイト対応、トラブル対応(ダンプ調査、修正作成・提供等)は実施いたしません。

最新の知識を持ったLinux OSの専門家が システムの早期安定稼働に向けて強力に支援

- 年間70,000台以上のサポート実績に基づく豊富なノウハウを活用した技術支援

Linuxテクニカルデスクサービス (設計技術支援)

Linux OSの仕様、推奨するパラメータ値、使用上の注意事項など、システム設計に関するお客様のご質問・ご相談に迅速に対応

Linux設計診断支援サービス (設計値レビュー)

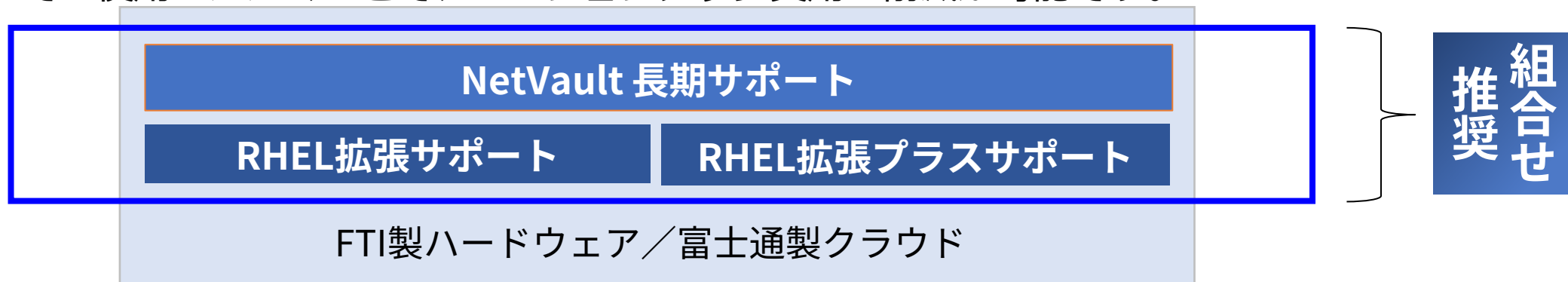
お客様にて設計されたLinux OSの設計・設定内容を診断し、問題点と改善案を提案

Linux性能評価支援サービス (システム性能評価)

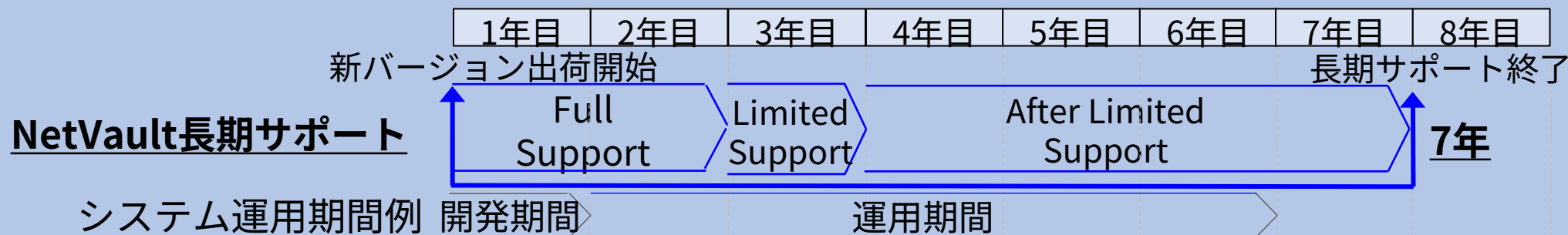
お客様システムの性能を、Linux標準ツールと当社高機能ツールを用いて分析・評価し、改善・チューニングポイントを提案

○ システム運用期間に最長7年間同一バージョンによるサポートを提供

NetVault 長期サポートはRHEL拡張サポート/RHEL拡張プラスサポートの推奨バックアップソフトです。組み合わせをご使用いただくことで、バージョンアップ費用の削減が可能です。



■ NetVault長期サポートは新バージョン出荷開始を起点に7年間のサポートを提供



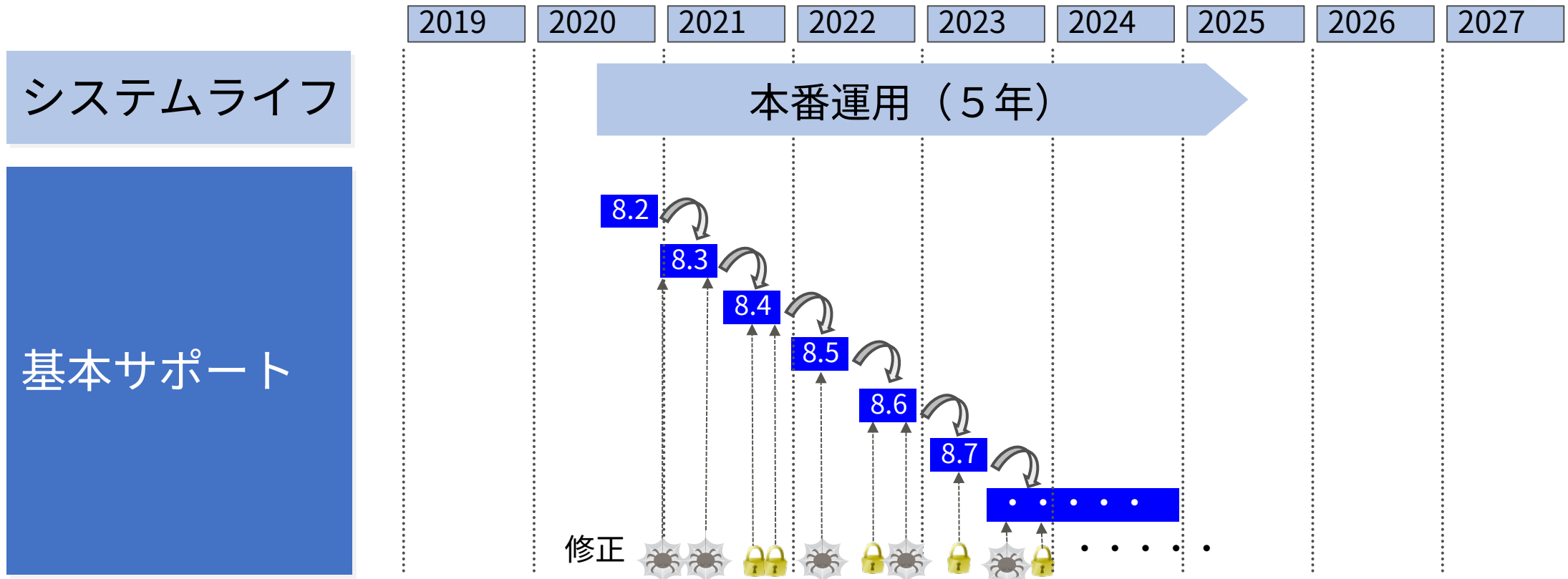
※ NetVault 長期サポートの詳細については以下を参照してください。

https://www.fujitsu.com/jp/imagesgig5/nv_longsupport.pdf

RHELのライフサイクルとシステム運用例

常に最新のマイナーリリース、修正を適用して運用

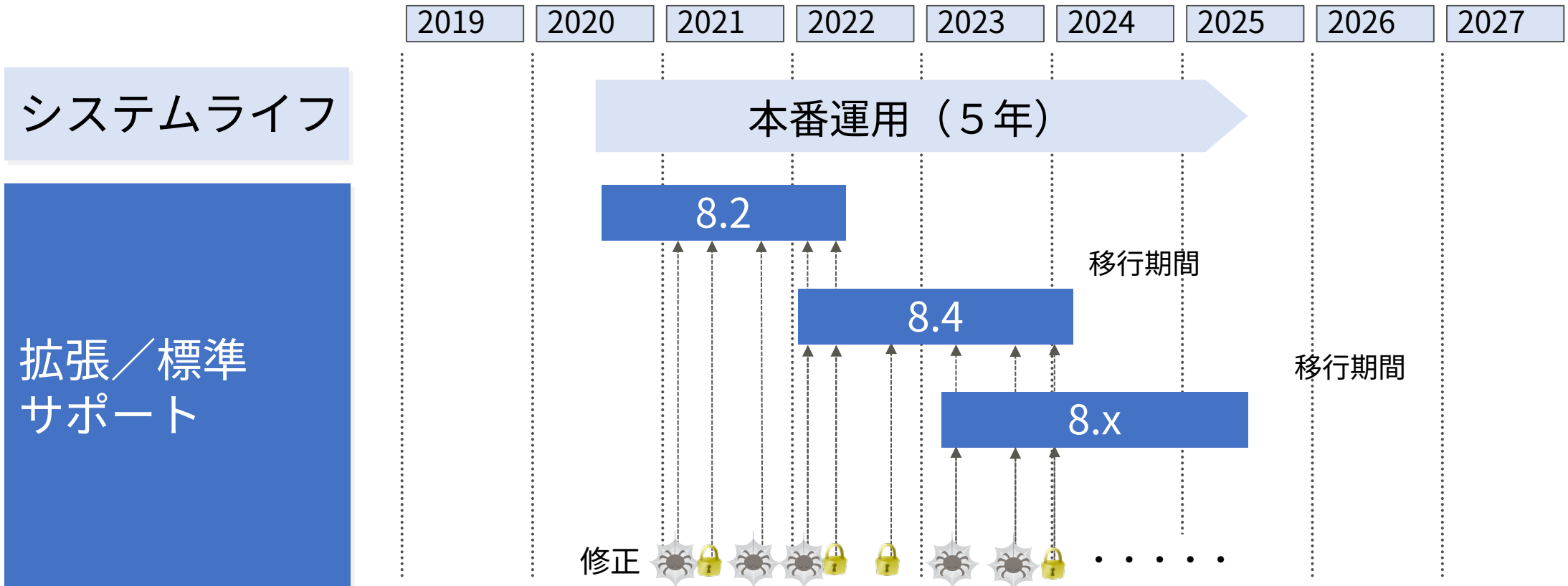
- マイナーリリースの提供に合わせてシステムもアップデート
⇒修正はその時点で最新のマイナーリリースに対してだけ提供



※ 本スライドは、アップデートの考え方を示したものであり、各マイナーリリースの提供時期、期間を保証するものではありません。

アップデート回数の削減により運用コストを削減

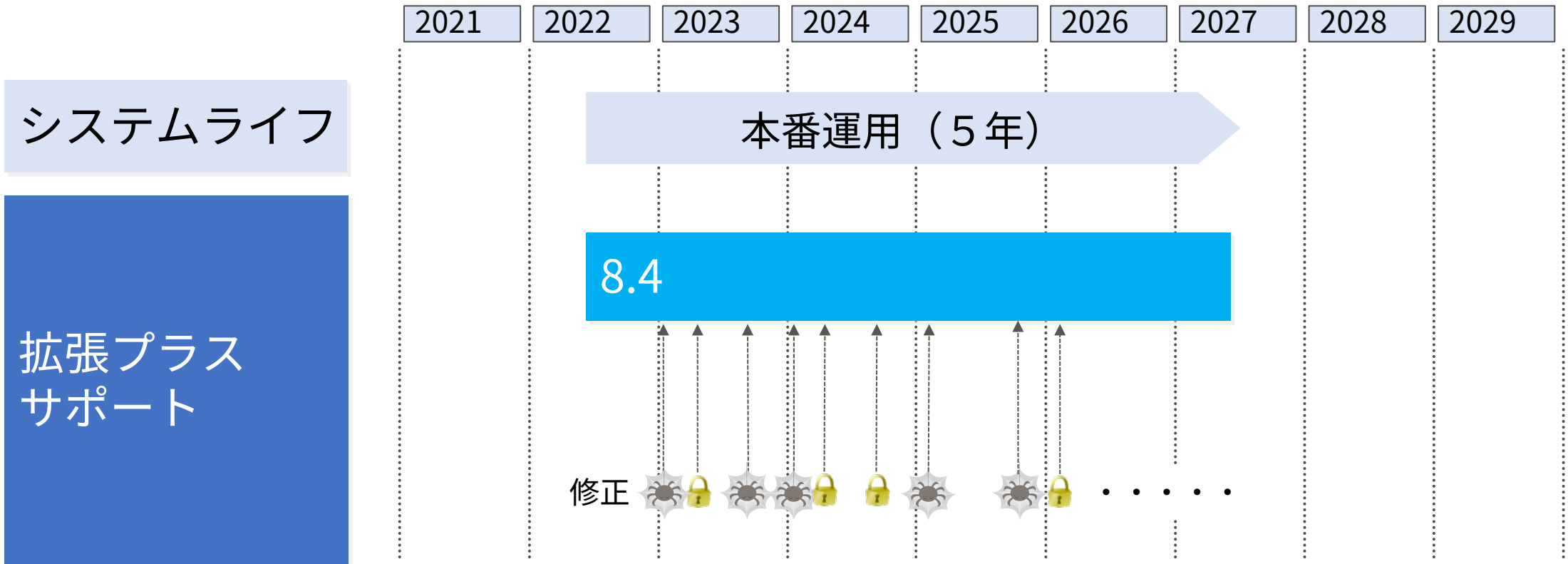
- 最新マイナーリリースだけでなく、EUS対象マイナーリリースのサポート期間中であれば修正を提供



※ 本スライドは、アップデートの考え方を示したものであり、各マイナーリリースの提供時期、期間を保証するものではありません。

システムライフ内は一貫して同一マイナーリリースを利用

- AUS対象マイナーリリースのサポート期間とシステムライフが合致すれば、アップデートなしの運用が可能



※ 本スライドは、アップデートの考え方を示したものであり、各マイナーリリースの提供時期、期間を保証するものではありません。

(参考) RHELのサポートフェーズ

【Red Hat社のRHEL製品ライフサイクル】

凡例：下線付き年月日の記載部分は、そのフェーズが終了していることを示します。

製品名	出荷開始	フルサポートフェーズ	メンテナンスサポート1フェーズ (RHEL5,6,7)	メンテナンスサポートフェーズ (RHEL8,9) メンテナンスサポート2フェーズ (RHEL5,6,7)	延長ライフサイクルサポート	延長ライフフェーズ
RHEL 9	<u>2022.05.18</u>	~2027.05.31		~2032.05.31	~2035.05.31	継続予定
RHEL 8	<u>2019.05.07</u>	~2024.05.31		~2029.05.31	~2032.05.31	継続予定
RHEL 7	<u>2014.06.10</u>	<u>~2019.08.06</u>	<u>~2020.08.09</u>	~2024.06.30	~2028.06.30	継続予定
RHEL 6	<u>2010.11.10</u>	<u>~2016.05.10</u>	<u>~2017.05.10</u>	<u>~2020.11.30</u>	~2024.06.30	継続中
RHEL 5	<u>2007.03.15</u>	<u>~2013.01.08</u>	<u>~2014.01.31</u>	<u>~2017.03.31</u>	<u>~2020.11.30</u>	継続中
RHEL 4	<u>2005.02.14</u>	<u>~2009.03.31</u>	<u>~2011.02.16</u>	<u>~2012.02.29</u>	<u>~2017.03.31</u>	<u>~2022.05.18</u>
フルサポートフェーズ	メンテナンスサポート1フェーズ	メンテナンスサポートフェーズ メンテナンスサポート2フェーズ	延長ライフサイクルサポート	延長ライフフェーズ		
<ul style="list-style-type: none"> マイナーリリースの提供 新機能の追加あり 新ハードウェアの対応 重大および重要セキュリティ修正と、緊急および一部の高優先度バグ修正の提供 	<ul style="list-style-type: none"> マイナーリリースの提供 新機能の追加なし 限定した新ハードウェアの対応 重大および重要セキュリティ修正と、緊急および一部の高優先度バグ修正の提供 	<ul style="list-style-type: none"> マイナーリリースの提供 新機能や新ハードウェアの対応なし 重大および重要セキュリティ修正と、一部の緊急優先度バグ修正の提供 	延長ライフサイクルフェーズにアドオン商品を契約することで、最終マイナーリリースに対して以下が可能： <ul style="list-style-type: none"> 一部の重大および重要セキュリティ修正と、一部の緊急優先度バグ修正の提供 	<ul style="list-style-type: none"> マイナーリリースの提供なし 新機能や新ハードウェアの対応なし セキュリティ修正/バグ修正の提供なし 以前にリリースされた修正やドキュメントなどのコンテンツ利用可 		

※ Red Hat社の製品ライフサイクルおよびサポートポリシーは、「Red Hat Enterprise Linux のライフサイクル (<https://access.redhat.com/support/policy/updates/errata/>)」のページを参照
 ※ 「フルサポートフェーズ」の終了日と「メンテナンスサポート1フェーズ」の終了日で示されている将来の日付はすべておおよそのものであり、最終的なものではないため、変更される場合があります。

【注意】 FTIのRHELサポートは、Red Hat社のライフサイクルに準じてサービス内容と期間を設定しています。Red Hat社の製品ライフサイクル終了後は、原則としてサポートサービスをご提供できませんので、予め最新バージョンを選択いただくをお願いします。Red Hat社のサポート終了後は、Red Hat社が公開しているインストールディスクや障害情報などがRed Hatカスタマーポータルから削除されることがあります。現在お使いのシステムを維持するために必要な修正やインストールディスクなどは、個別にバックアップするか、運用中のシステムに修正を適用後、システム全体のバックアップを取るなどの対応をお願いします。また、Red Hat社のサポートが終了した場合、新たな修正はRed Hat社より提供されなくなります。そのため、新たなセキュリティ問題に対する修正もRed Hat社より提供されなくなりますので、あらかじめご了承ください。

Red Hat Enterprise Linux 9のご紹介

- RHEL9では下記のポイントを特に強化

イノベート

- パフォーマンス改善
 - Link Time Optimization
ビルド時の最適化であるLink Time Optimization (LTO) によりパフォーマンスを改善
 - Podman4.0
拡張サポート(EUS)環境でのコンテナ機能について、EUSに合わせたサポートを開始
 - UBI
最新のRHEL9のソフトウェアスタックが利用可能

プロテクト

- さらなるセキュリティの取組みへの強化
 - crypto-policies
脆弱性があるが、対処が不可能であったTLS1.0、TLS1.1、DTLS1.0、RC4、Camellia、DSA、3DES、およびFFDHE-1024を、すべてのポリシーで無効化
 - SSHデータ転送
脆弱性対策として、SSHデータ転送をSCPからSFTPへ変更

付録 1：FTI主導実装のミッションクリティカル 機能

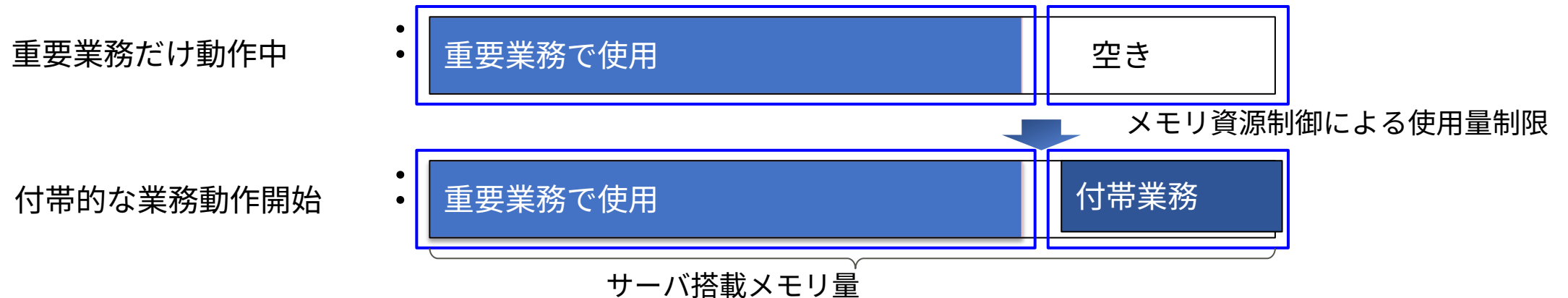
業務間のメモリ資源競合による影響抑止

異種業務を単一サーバに混載：メモリ競合による業務間の影響排除が目的

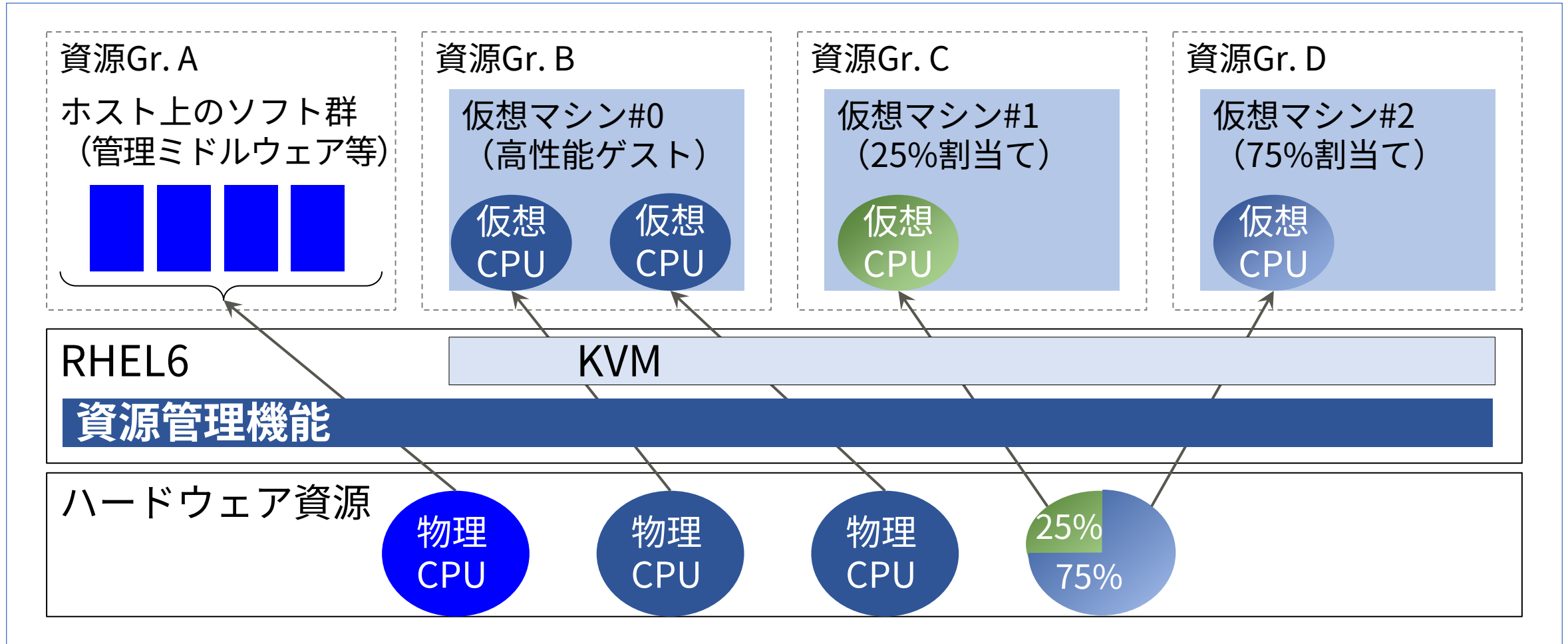
- 従来のRHEL：検証・設計誤りにより、重要業務の処理に影響する可能性



- RHEL6：Memory cgroupで重要業務のワーキングセットを完全保護

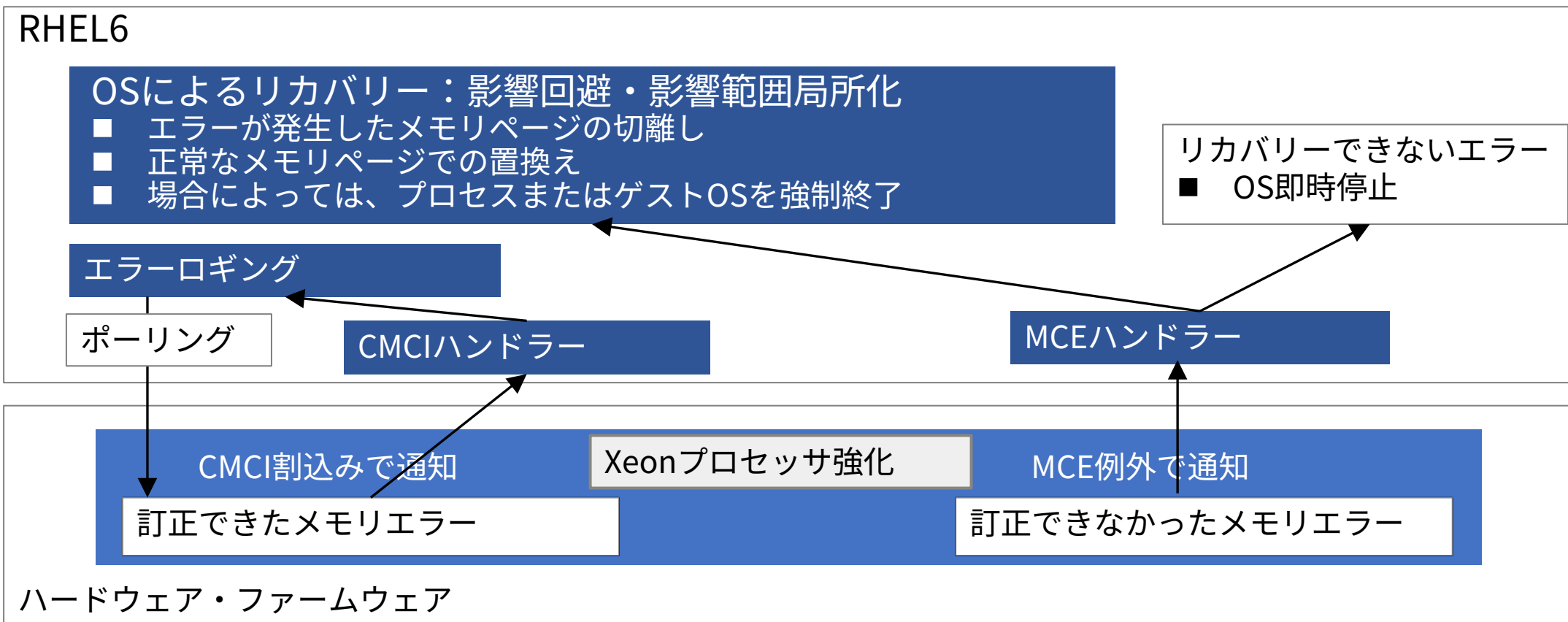


仮想マシン資源割当て基盤機能



Xeonプロセッサ強化に合わせたRAS強化機能

- ハードウェア・ファームウェアで訂正できるエラー範囲強化に伴いログ充実
- 訂正できないエラー通知の強化にLinuxを対応させ、システムの可用性向上



迅速かつ確実な原因究明のための機能

- ftrace機能
 - シンプル、低オーバーヘッドのカーネル内イベントトレーサー
- 異常発生直前の処理履歴（トレース）情報は、原因究明に極めて有用（飛行機のフライトレコーダに相当）
- 低オーバーヘッドのフライトレコーダとして使用可能
 - ftraceによりメモリ上にトレース情報を保存しながら運用
 - 採取すべきイベントは、FTIのサポートノウハウに基づき厳選
 - トラブル調査では、クラッシュダンプイメージからトレース情報を抽出

```
crash> trace show
```

```
<...>-19419 [000] 380.087659: softirq_exit: vec=9
<...>-19419 [000] 380.088209: sched_stat_sleep: comm=cat、 pid=19418、 delay=252968
<...>-19419 [000] 380.088210: sched_wakeup: task cat:19418 [120] success=1
<...>-19419 [000] 380.088280: sched_process_exit: task makedumpfile:19419 [120]
<...>-19419 [000] 380.088283: signal_generate: sig=17、 errno=0、 code=262145、 comm=ldd、 pid=19417
<...>-19419 [000] 380.088285: sched_migrate_task: task ldd:19417 [120] from: 0 to: 1
<...>-19419 [000] 380.088286: sched_stat_sleep: comm=ldd、 pid=19417、 delay=692178
```

既存OS機能との連携、ISV連携強化

- cgroup (KVMのベース機能)
 - 初期よりコミュニティ開発に参画し、メモリ資源管理のメンテナーとして開発を牽引
 - 上流工程からの品質施策として、テストセットをLinux Test Project(LTP)にマージ
 - CPU帯域制限機能などの基盤機能を開発
- KVM
 - カーネルに加え、libvirt、QEMUコミュニティでの機能開発
 - FTIエンジニアが、libvirtメンテナーとして開発を牽引
 - 主に資源管理機能との連携、管理API・コマンドインタフェースの強化、RAS機能強化、保守機能の強化、メモリ管理の最適化など
- コミュニティ主催カンファレンスでの活動
 - LinuxCon Japan 2014 (800名規模のカーネルエンジニア論文発表大会)
論文発表 : クラウド、コンテナ、Btrfs、その他
パネラー : クラウドプロバイダパネル、組込み開発者パネル

- OS異常時のメモリダンプのLinux標準化を、FTIが主導
- Kernel panic、ハングアップ発生時の調査資料採取のため、ファームウェアによるメモリダンプ採取機能をPRIMEQUESTに搭載
- 確実なメモリダンプ採取により、障害調査の長期化要因を排除

RHEL2.1(2003~)

LKCD*

- 稼動中OSでダンプ採取
- OS異常・ドライバ異常時、採取失敗の場合あり
例：メモリ獲得失敗時
スピンロック中
OS初期化処理中

* Linux Kernel Crash Dump

- 利点
- 弱点

RHEL3/4(2005~)

diskdump
netdump

- OS内にダンプ専用機能
- デバイス異常時、採取不可
OS異常時・OS初期化中は、ダンプを採取できない

+

RHEL5/6・・・(2007~)

kdump

- 専用カーネルでデバイスリセット
- 一時的なデバイス異常時でもダンプを採取できる

+

PRIMEQUEST専用(2005~)

sadump

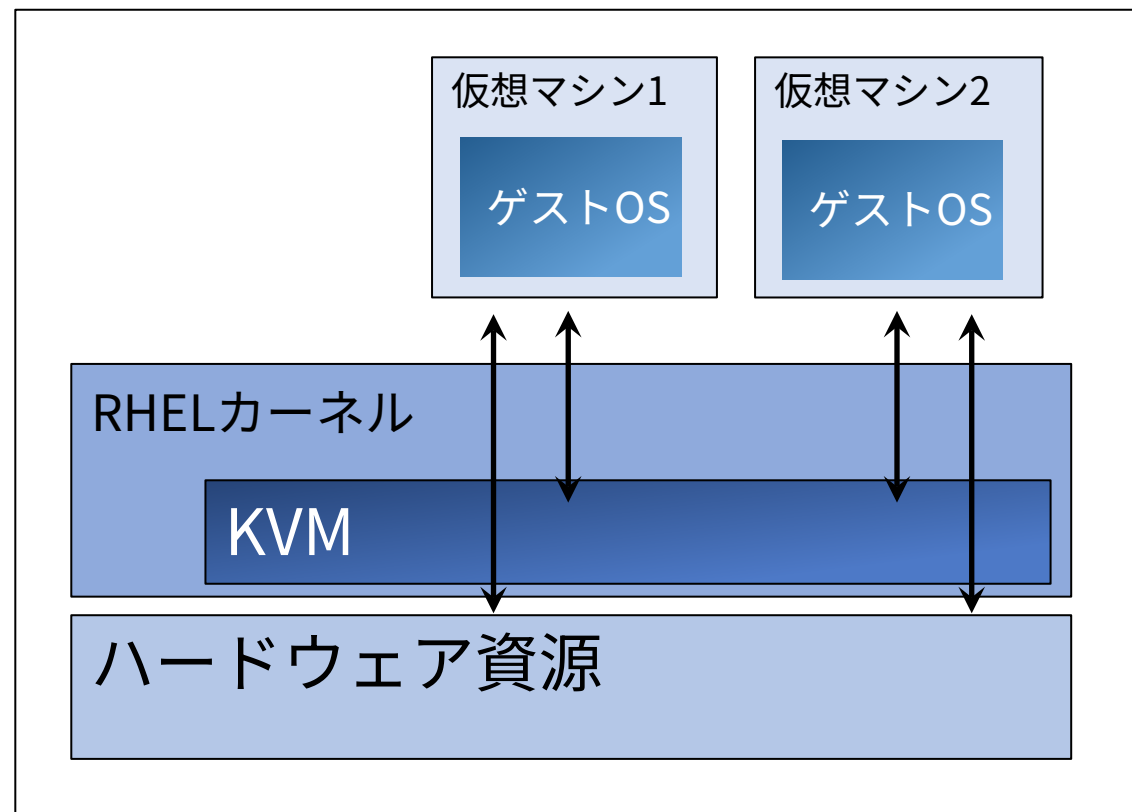
- メモリダンプ採取専用ファームウェアを使用

付録 2 : RHEL仮想化機能 (KVM)

KVMはLinuxに最適化された仮想環境

- Linux標準の仮想化機能
 - 2007年にRHEL6で登場したLinuxカーネルの技術
 - Linuxカーネルに統合されて実装 ⇒ カーネルの機能拡張の恩恵を享受できる
 - Intel CPU (VT)技術を利用

○RHEL-KVM仮想マシンの構成



特別なソフトウェアは不要。Linuxを導入すれば、すぐに利用可能

- OS基本機能のため、別途仮想化用のソフトウェアが不要
- 利用者には導入や管理が容易

Linux対応の多くのアプリケーションが利用可能

- 多くのミドルウェア、ISV製品をゲストOS上でそのまま利用可能*1

*1 ゲストOS上でのサポート詳細については、各ソフトウェアベンダーにお問い合わせください。

最新のハードウェア、ソフトウェア技術に対応

- CPUエンハンス対応、I/Oカード、セキュリティ技術等を利用可能

○リソース配分、拡張機能

CPU

- 仮想マシンごとにリソースを柔軟に配分

メモリ

- 仮想マシンごとに占有メモリを割当て

ディスク（仮想ブロックデバイス）

- HBA(FCカード等)を仮想マシン間で共有

ネットワーク

- 仮想マシンのネットワークを柔軟に設定

○運用管理、保守機能

仮想マシンのGUI管理

- 仮想マシンの管理操作

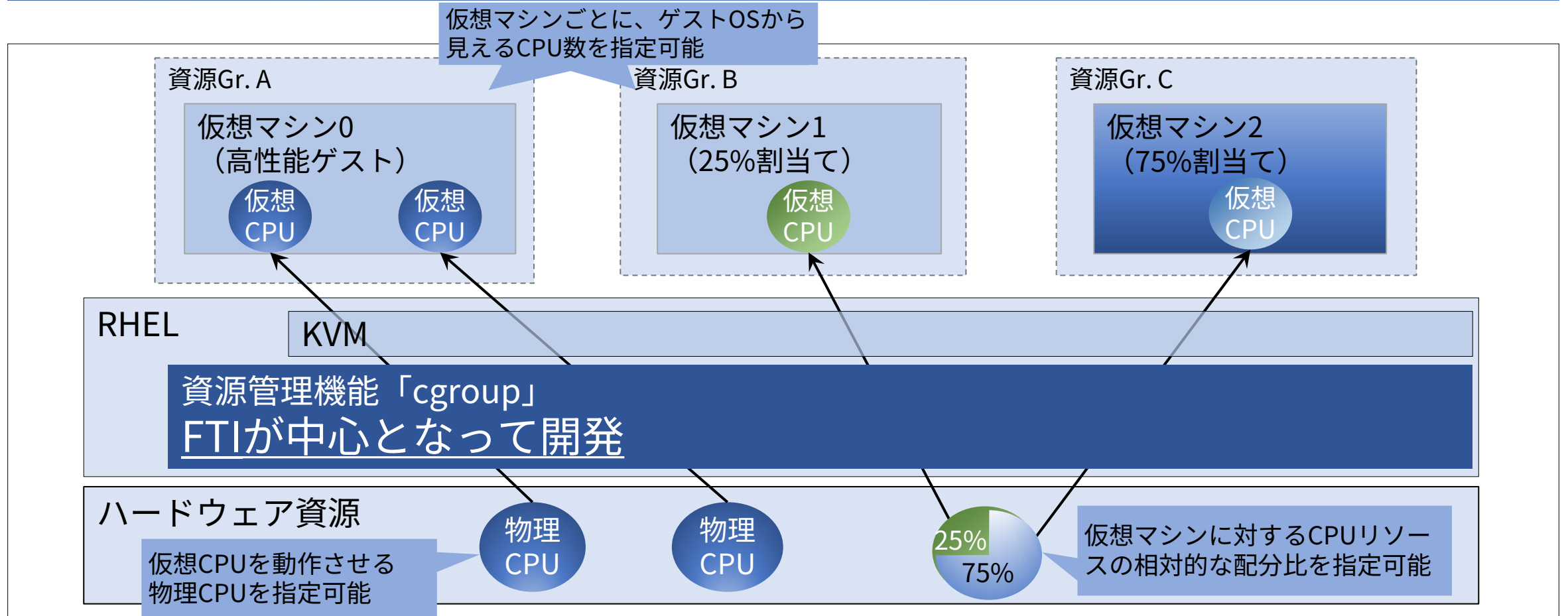
仮想マシンのクローニング

- 仮想マシンの複製

ライブマイグレーション

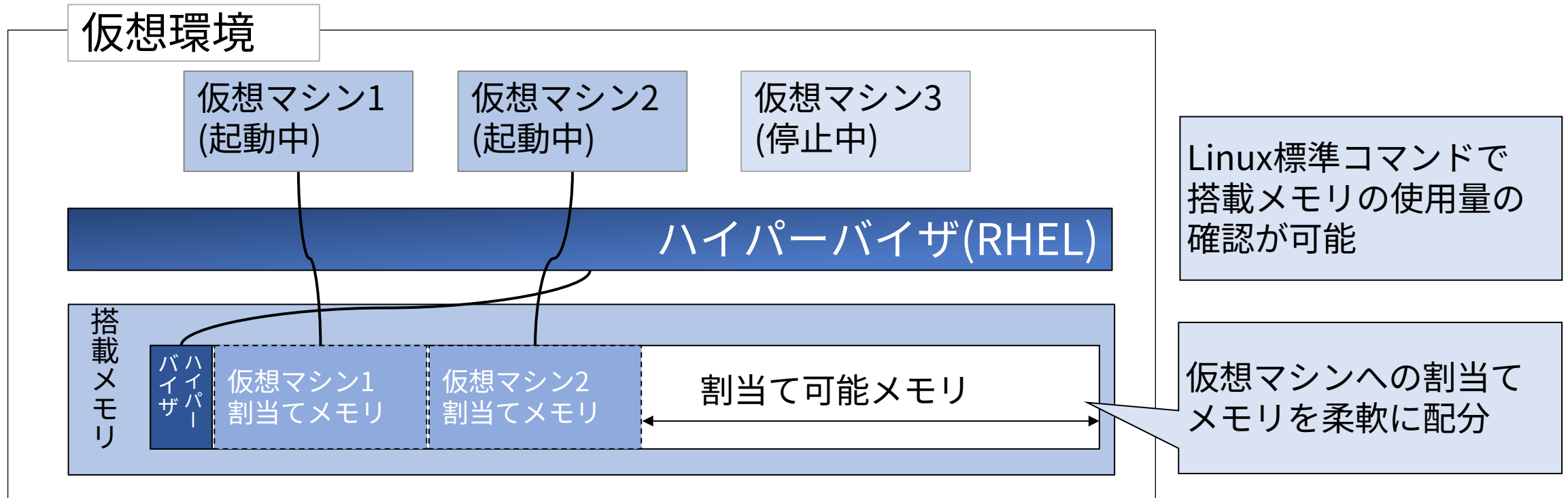
- 仮想マシンの移行

ゲストOSごとに、CPUリソース（仮想CPU数、CPU使用比率 配分(Weight)、物理CPU指定(Pin)) を柔軟に配分可能



メモリ管理はLinux自体と共有、シンプルな管理が可能
また仮想マシンごとに占有メモリを割り当てることが可能

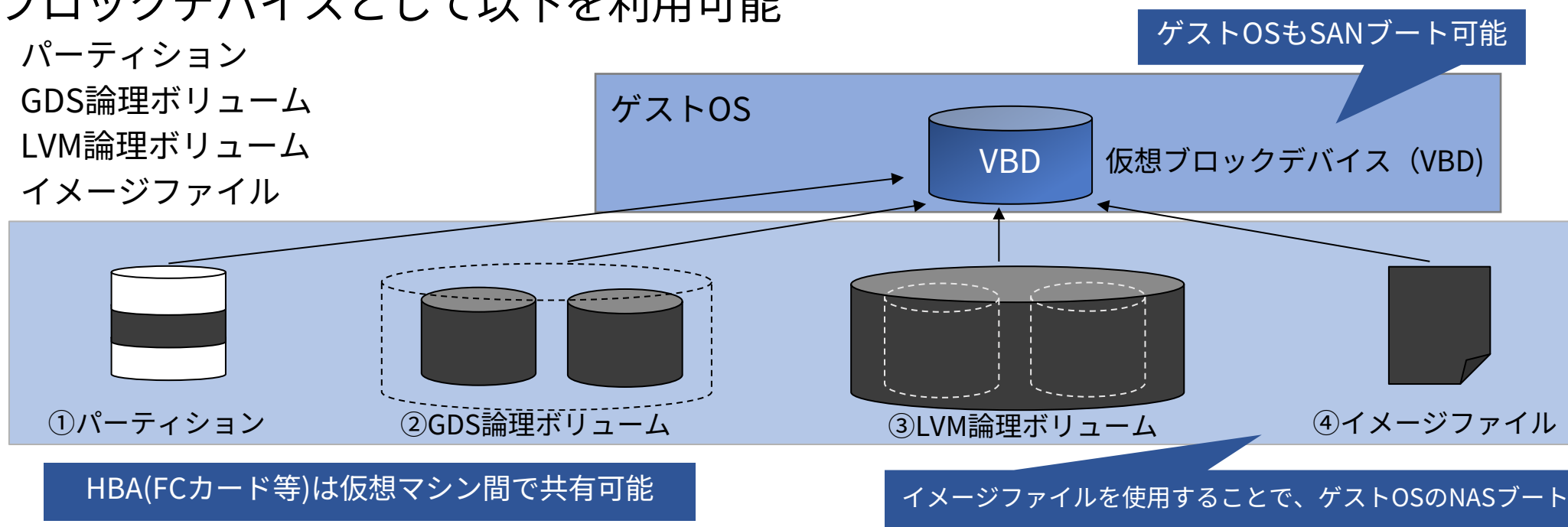
- 仮想マシン起動中は割り当てられたメモリを占有
- 物理マシンに搭載されたメモリをプールして、仮想マシン起動時に割当て



FCカードなどを共有しながら、パーティション、ファイル、GDS^{*1}論理ボリューム、LVMを利用可能

- 仮想ブロックデバイス(VBD)は、仮想マシンにブロックデバイスを割り当てるための機構
- 仮想ブロックデバイスとして以下を利用可能

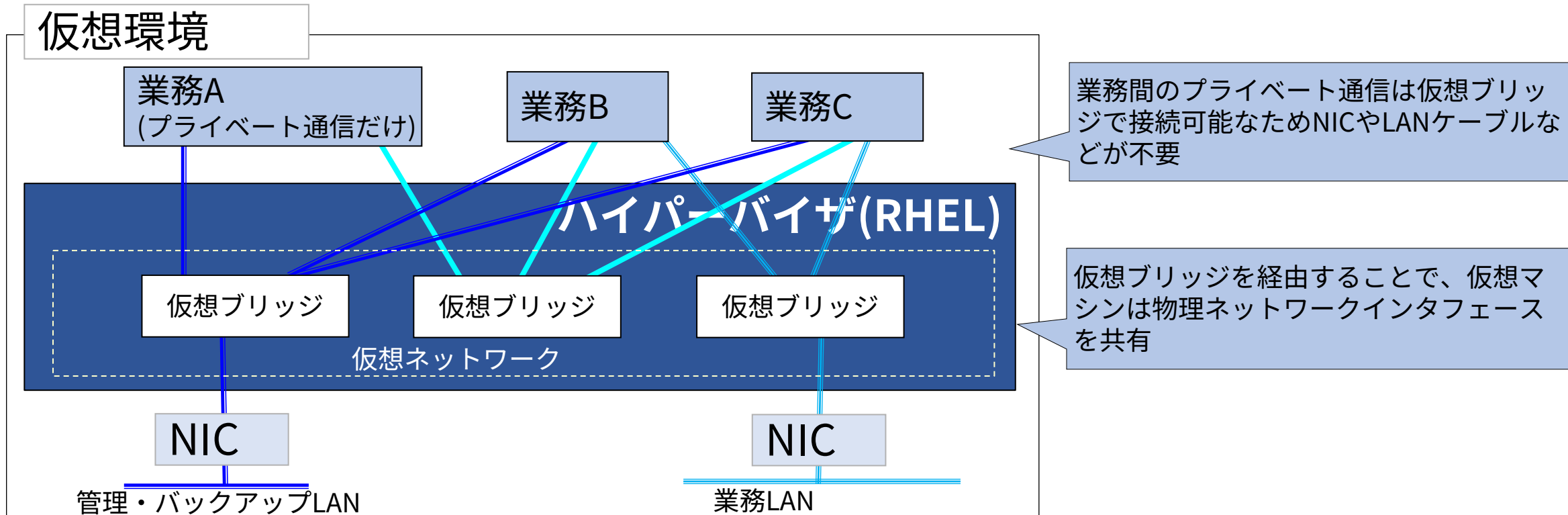
- ① パーティション
- ② GDS論理ボリューム
- ③ LVM論理ボリューム
- ④ イメージファイル



*1 GDS (PRIMECLUSTER Global Disk Services) はディスク装置に格納されているデータの可用性と運用管理性を向上させる富士通のボリューム管理ソフトウェア

仮想マシンの仮想ブリッジによる物理NIC共有、
ゲストOS間の内部折返し通信等が可能

仮想環境



業務ネットワーク、管理ネットワークなどの
専用ネットワークの構築が容易

最小の外部IPアドレスでネットワーク環境を構築可能

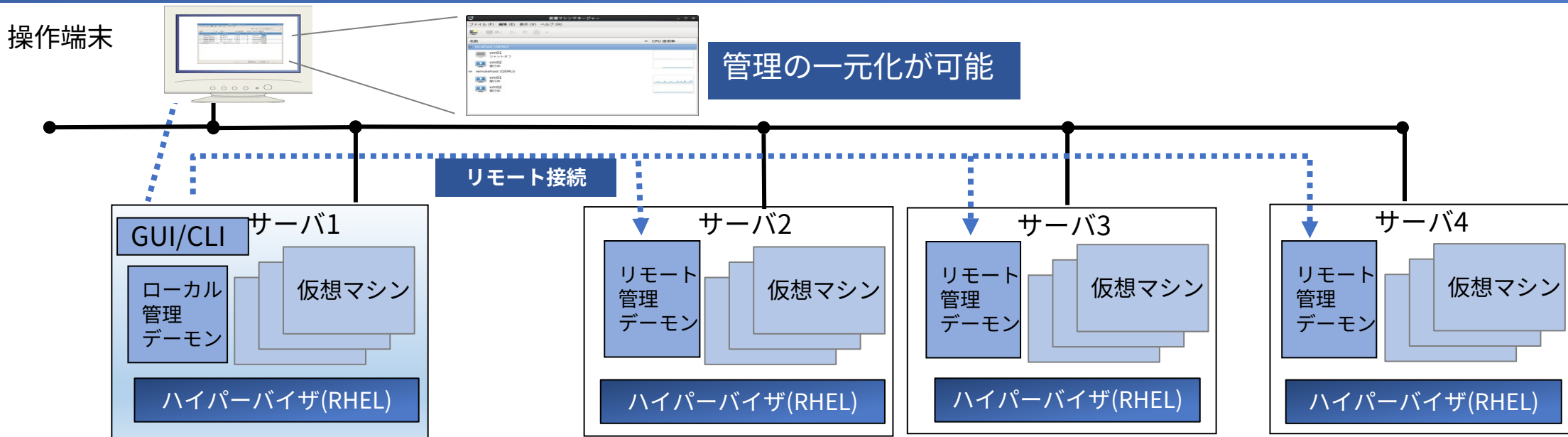
GUIの仮想マシンマネージャー 「virt-manager」による仮想マシン操作が可能

- 標準搭載のGUIツール
- 仮想マシンの起動・停止・再起動の操作
- 仮想マシンの状態表示
- 仮想マシンのリソース設定変更

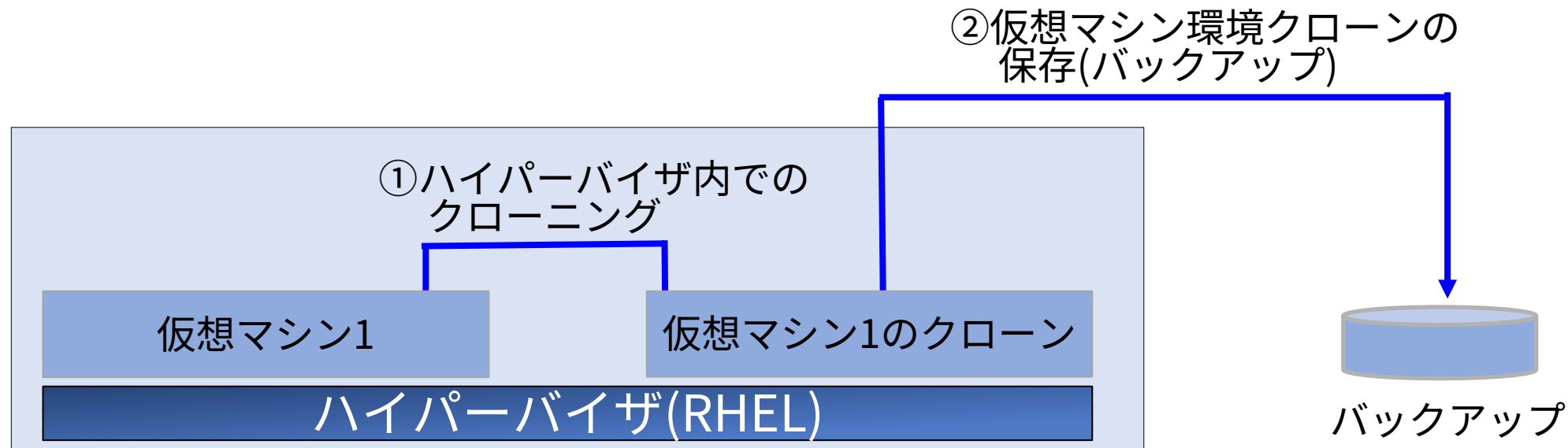


コマンドによる操作が不要

リモートサーバ上の仮想マシンの監視・操作が可能



簡単にセットアップ・バックアップが可能

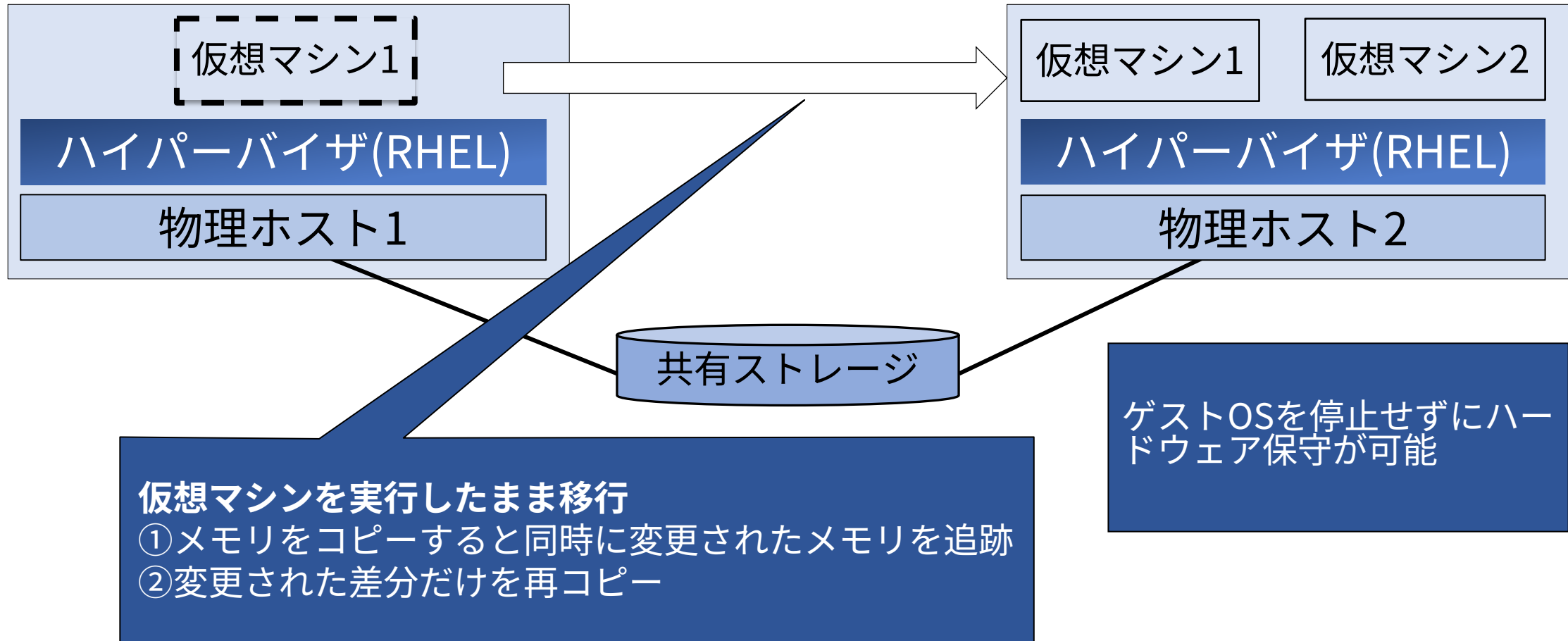


開発環境、テスト環境などで、雛形となる仮想マシン環境を何度も複製した利用が可能



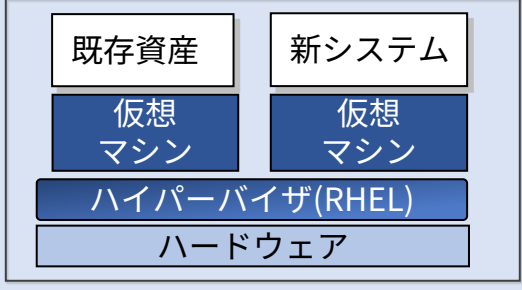
各種修正やパッチ適用を行う前の仮想マシン環境の保存が可能

仮想マシン環境のバックアップや他サーバへの複製が可能

実行したままの仮想マシンを別の物理ホストに移行可能



※ 同一の共有ストレージ、ネットワーク、およびアーキテクチャが必要

	お客様の課題	実現方法	仮想マシン構成イメージ
サーバ集約によるTCOの削減	<p>システムコストの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期投資コスト ランニングコスト 	<p>本番環境を仮想マシンで集約</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードウェアの削減 運用/管理の統一 	
投資に見合うハードウェアリソースのフル活用	<p>複数の開発・テスト環境の効率的維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要最低限の資源で環境維持 異なるOSの混在 	<p>開発・テスト環境を仮想マシンで集約</p> <ul style="list-style-type: none"> 未起動ゲストのリソース活用 異種環境を複数確保 	
ハードウェアとOS更新サイクルの分離	<p>新ハードウェアにおける既存OS/ソフトの運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存OS/ソフトの新ハードウェアでの利用 延伸しているシステム改修実行 	<p>仮想マシンでの既存資産運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 物理環境の仮想化移行 運用とは別の仮想マシンでシステム改修 	

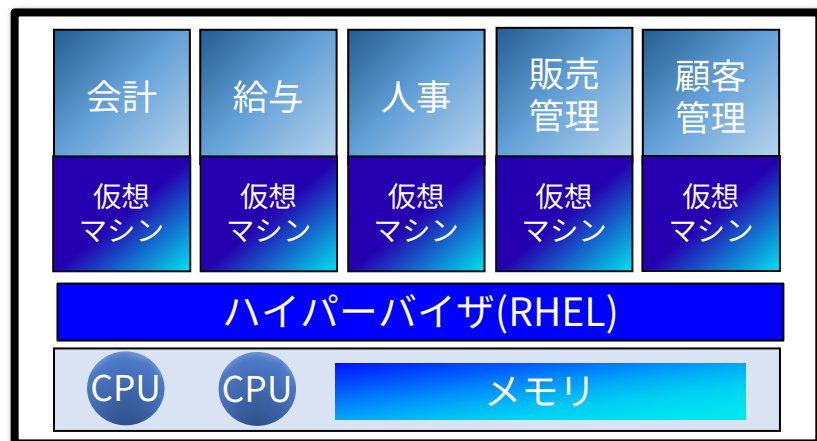
ハードウェアリソースの使用率の低いサーバ群を仮想化で集約し、削減

適用前 物理サーバ(1CPU)×5台



サーバ集約

適用後 物理サーバ (2CPU)×1台



効果

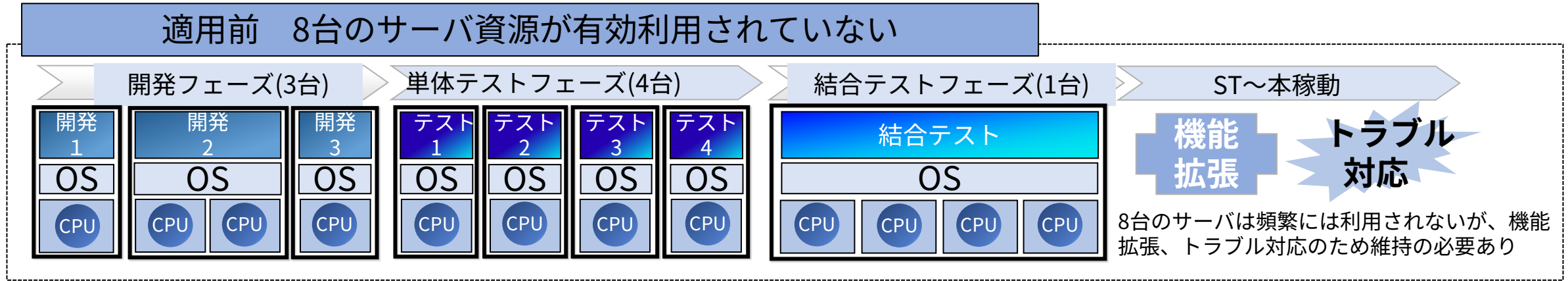
- ハードウェアの削減
- 運用・管理の統一

削減

- ・ 初期投資コスト
- ・ ランニングコスト

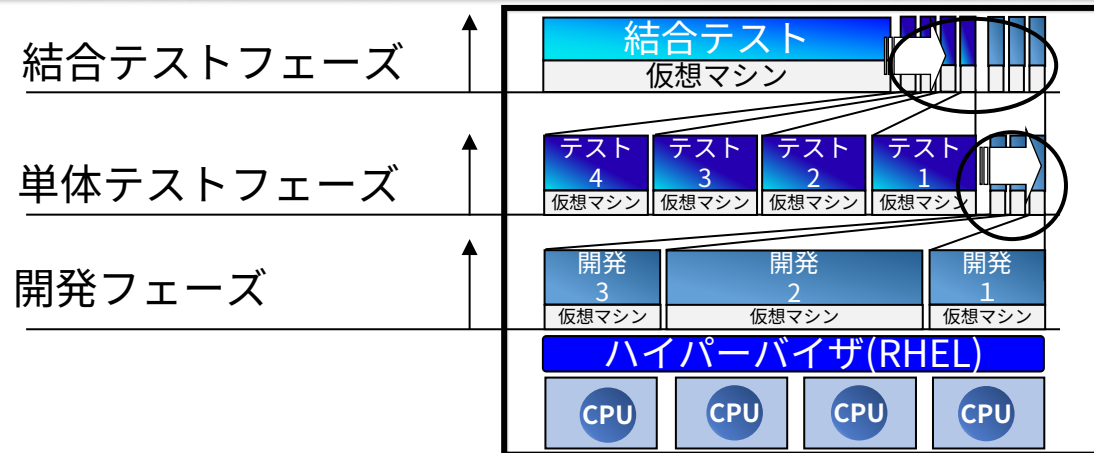
フェーズごとに用意していたサーバを仮想化、必要な時に必要なだけを実現

適用前 8台のサーバ資源が有効利用されていない



1台で構築

適用後 1台のサーバ資源を有効活用



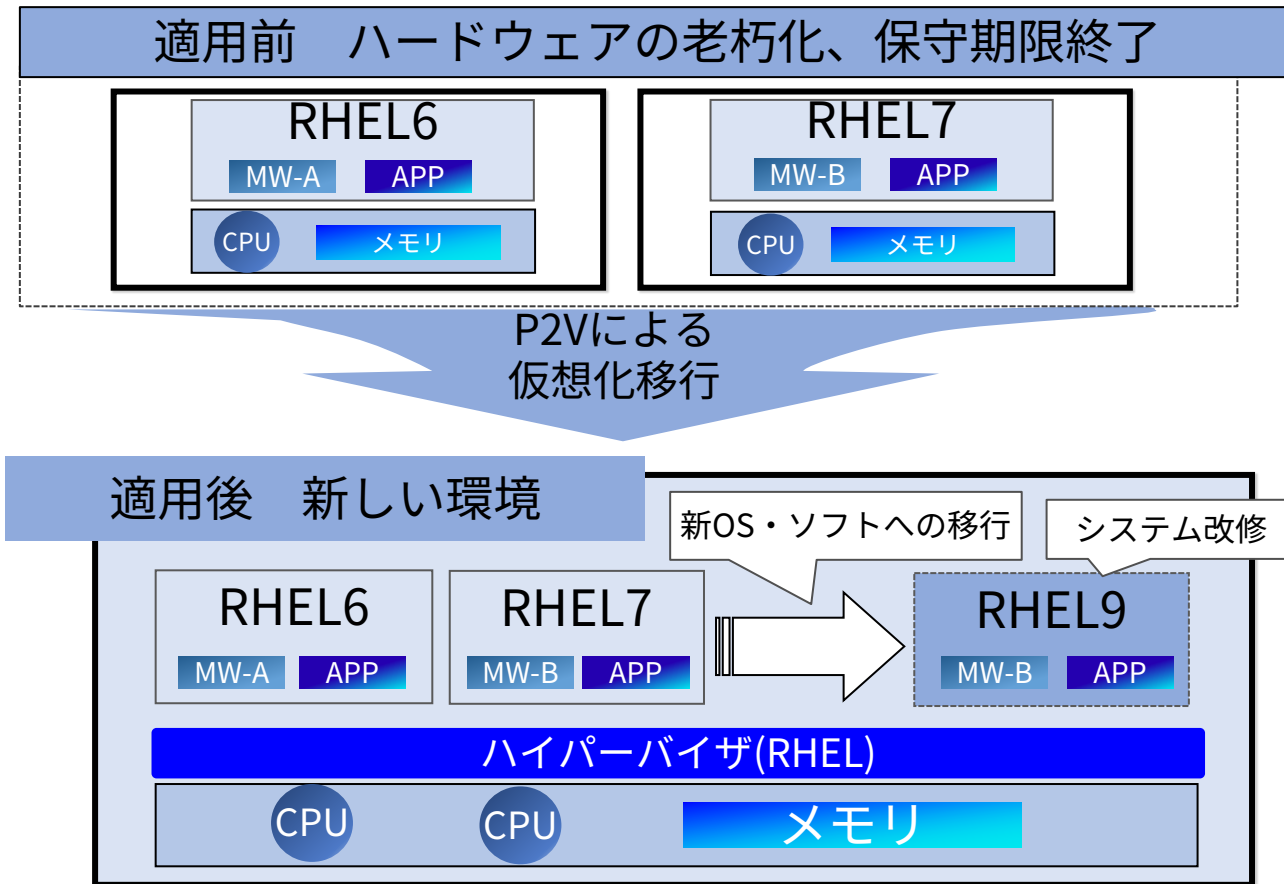
効果

- 未起動ゲストのリソース活用
- 異種環境を複数確保

実現

- 必要最低限の資源で環境維持
- 異なるOSの混在

ハード保守期限が切れたシステムを集約し、
新システムへの効率的な移行を実現



効果

- 物理環境の仮想化移行
- 運用とは別の仮想マシンでシステム改修



- ・ 既存OS・ソフトの新ハードウェア対応
- ・ システム改修

実現

KVM、VMware、Hyper-V、Nutanix AHVの比較

	RHEL9/8/7/6-KVM	VMware	Hyper-V	Nutanix AHV
提供元	<ul style="list-style-type: none"> Red Hat社 	<ul style="list-style-type: none"> VMware社 	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft社 	<ul style="list-style-type: none"> Nutanix社
提供形態	<ul style="list-style-type: none"> カーネルの機能として、主要なディストリビューションに搭載 	<ul style="list-style-type: none"> 商用パッケージ製品として提供 	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows Serverの一機能として標準提供 	<ul style="list-style-type: none"> PRIMERGYにプレインストールし、ライセンス・サポートもFTIから提供
FTIでサポートするゲストOS	<ul style="list-style-type: none"> RHEL Windows 	<ul style="list-style-type: none"> RHEL/SLES Windows 	<ul style="list-style-type: none"> RHEL/SLES Windows 	<ul style="list-style-type: none"> RHEL Windows
特徴	<ul style="list-style-type: none"> カーネルに統合されたLinux標準の仮想マシン機能 スケジューラ、メモリ管理、デバイスドライバ、タイマーなどの機能をLinuxそのものと共有 	<ul style="list-style-type: none"> 仮想化ソフトとして歴史が古い(1998年～) Linux、Windowsなど、様々なOSに対応 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストOS用のWindows Serverのライセンスが含まれる(1～無制限) 	<ul style="list-style-type: none"> AHVは、Linux KVMをベースとして、エンタープライズ向け機能やセキュリティ強化を追加 AHVの利用に追加費用不要
管理ソフト	<ul style="list-style-type: none"> virt-manager、virsh (OS標準) 	<ul style="list-style-type: none"> VMware vCenter Server (別製品) 	<ul style="list-style-type: none"> Hyper-V マネージャー (OS標準) System Center Virtual Machine Manager (別製品) 	<ul style="list-style-type: none"> Nutanix Prism (PRIMERGYにプレインストール)

	ゲストOS	I/Oの方式
準仮想化方式 (Para-Virtualization)	準仮想化方式用に <u>改造したOSが必要</u>	準仮想化ドライバを利用し、 <u>最小限のオーバーヘッドでI/O処理を実現</u>
完全仮想化方式 (Full Virtualization)	物理マシンで動作する <u>OSを無改造で使用可能</u>	デバイスのエミュレータによりI/Oを実現するため、物理マシンと比べて <u>処理性能は大幅に低下</u>

RHEL-KVM仮想マシン機能では

完全仮想化方式 + ゲストOS向けに 準仮想化ドライバ (Virtio) を提供	<u>OS無改造で使用可能</u>	<u>最小限のオーバーヘッドでI/Oを実現</u>
--	-------------------	---------------------------

それぞれの方式の特徴をそのまま利用できる

• RHEL-KVMのサポート対象ゲストOS

ゲストOS	RHEL6-KVM	RHEL7-KVM	RHEL8-KVM	RHEL9-KVM
Red Hat Enterprise Linux 5 (5.3以降) for x86 (32bit)	○	○	×	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (5.3以降) for Intel64 (64bit)	○	○	×	×
Red Hat Enterprise Linux 6 for x86 (32bit)	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 6 for Intel 64 (64bit)	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 7	○	○	○	○
Red Hat Enterprise Linux 8	○(*5)	○(*6)	○	○
Red Hat Enterprise Linux 9	×	×	○(*7)	○
Microsoft Windows Server 2008 (x64)	×	拡張プラスサポート契約時のみ、拡張プラスサポート対象版数でサポート可	×	×
Microsoft Windows Server 2008 R2	○(*1)		×	×
Microsoft Windows Server 2012	○(*2)		×	×
Microsoft Windows Server 2012 R2	○(*3)		○	×
Microsoft Windows Server 2016	○(*4)		○	○
Microsoft Windows Server 2019	×		○	○
Microsoft Windows Server 2022	×	×	○(*8)	○
Microsoft Windows Server 2025	×	×	×	○(*9)

*1: RHEL6.2以降 *2: RHEL6.4以降 *3: RHEL6.5以降 *4: RHEL6.9以降 *5: RHEL6.10以降 *6: RHEL7.5以降 *7: RHEL8.4以降 *8: RHEL8.6以降 *9: RHEL9.5以降

(参考) Red Hat 社のゲストOSサポート情報:<https://access.redhat.com/articles/973133>

【注】 FTIで未サポートのゲストOSが含まれる環境では、当該ゲストOSとの組合せで発生するトラブルはサポート対象外です。

付録 3 : RHEL関連商品

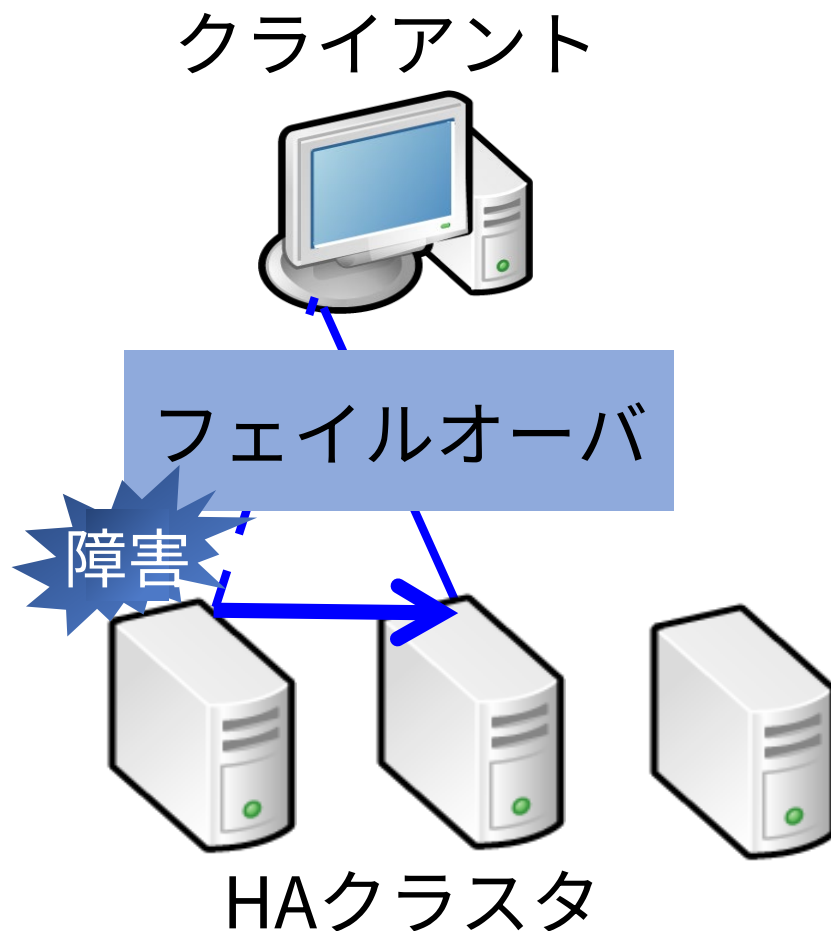
アドオン製品、仮想化管理製品

- Red Hat Enterprise Linuxアドオン製品
 - High Availability (HA)
- クラウド基盤製品
 - Red Hat OpenStack Platform (RHOSP)

High Availability (HA) アドオン

RHEL HA Add-Onは、RHEL上で動作するアプリケーションの可用性を高めるHAクラスタ機能を提供する商品

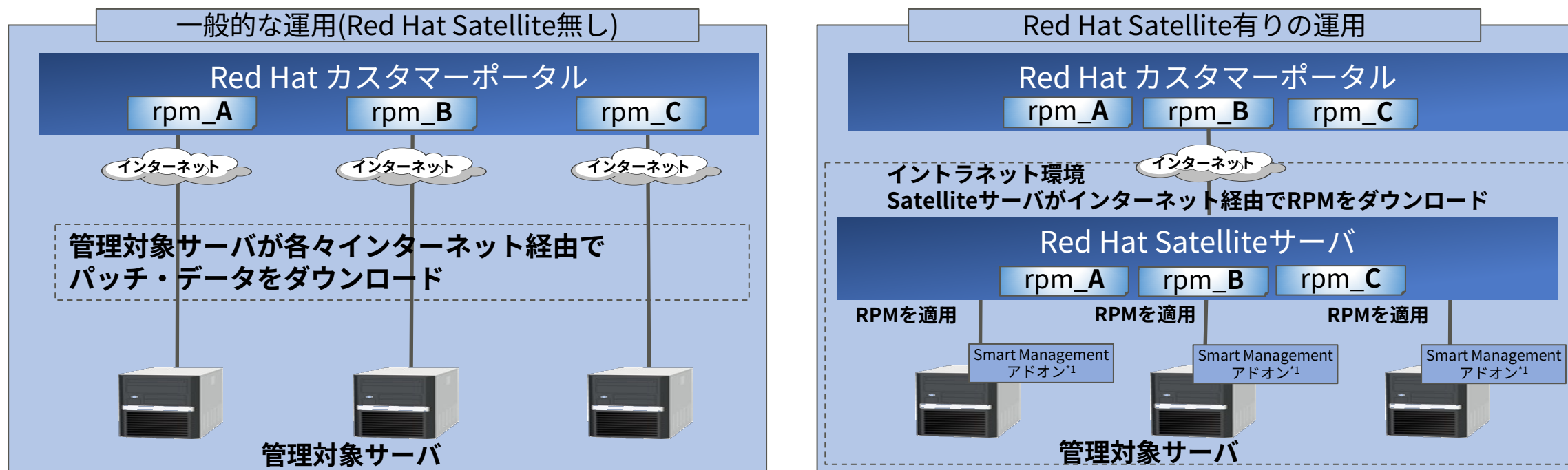
- RHEL HAアドオンの特徴
 - WWW UIによる簡易な運用管理に対応
 - クラスタノード数は3台以上推奨



Red Hat Satellite
(+Smart Managementアドオン)

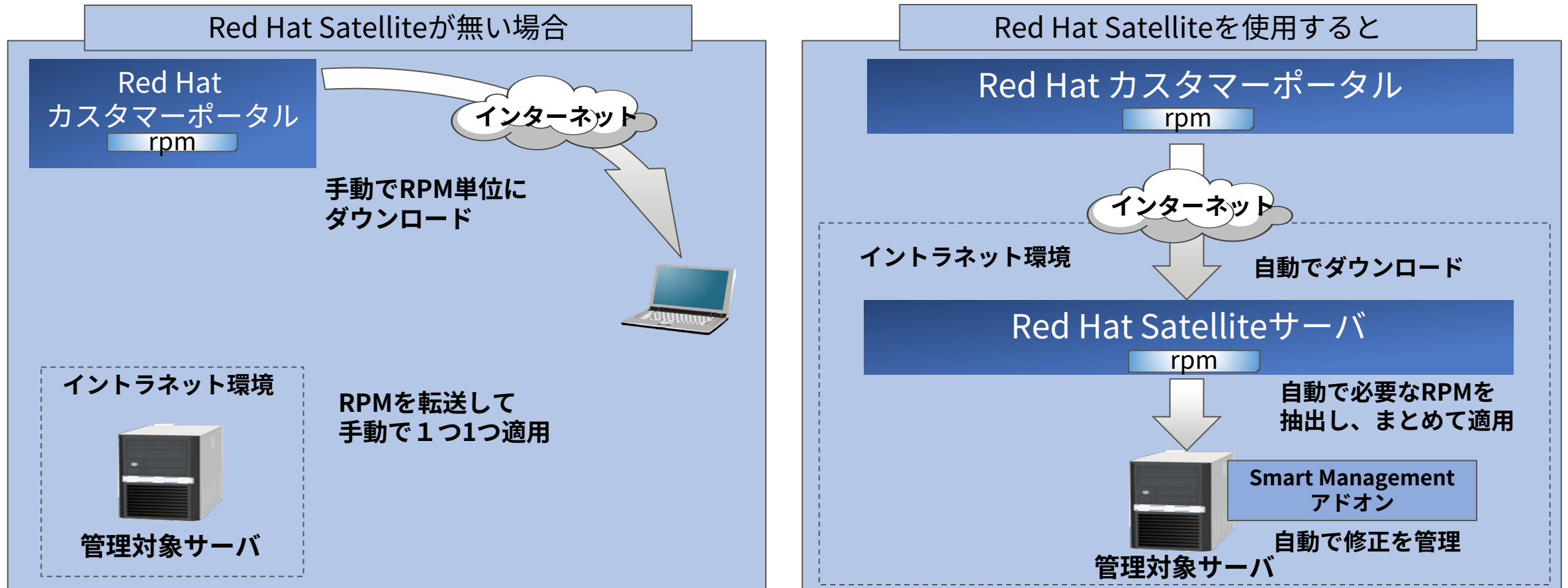
Red Hat カスタマーポータル機能をイントラネット環境でも実現するソリューション

- 外部接続できないイントラネット環境の修正適用を効率化
- 管理対象サーバをグループ化し、単一のシステムと同様に効率的な修正適用が可能
- お客様独自の修正もOS修正と同様の方法にて適用可能



*1 Smart Management アドオンとは
Red Hat Satelliteと連携して、マネージメント機能（グループ化、お客様独自修正の管理など）やプロビジョニング機能を実現するエージェント製品。

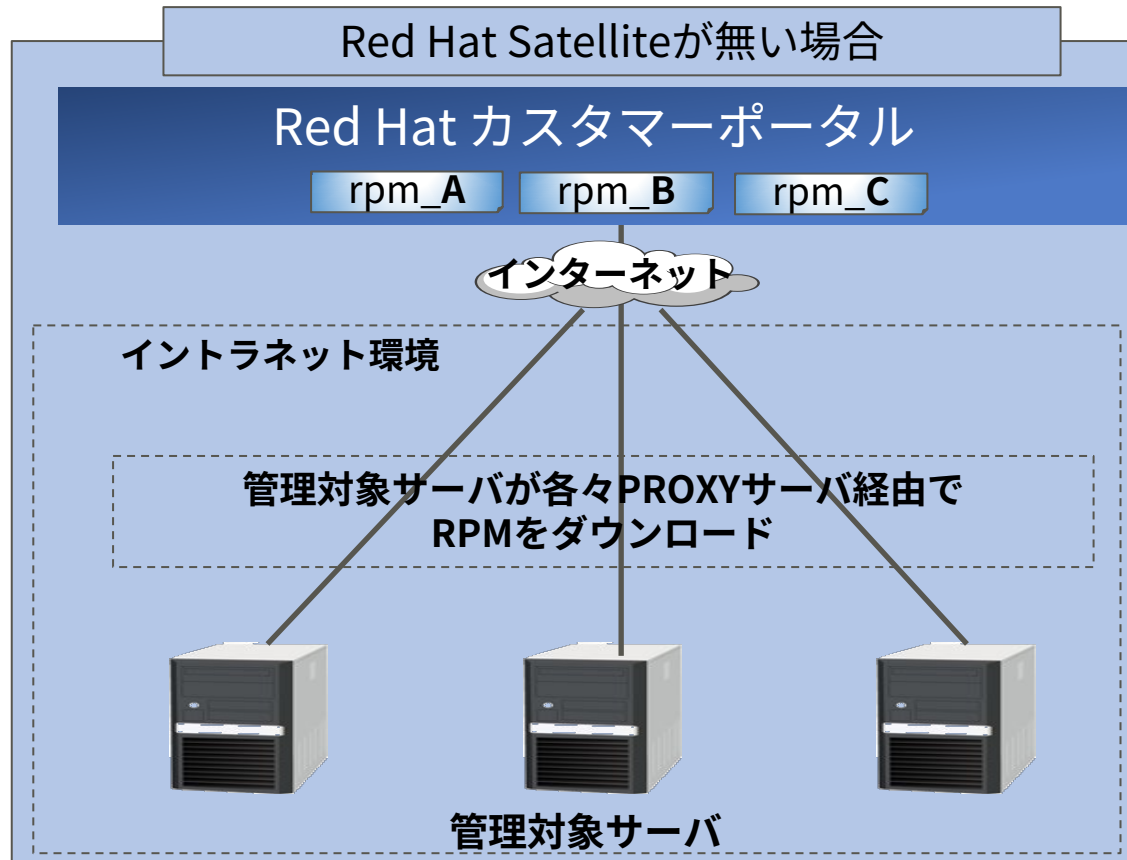
外部接続できないイントラネット環境の修正適用を効率化



現状の課題 手動適用で工数が掛かっている

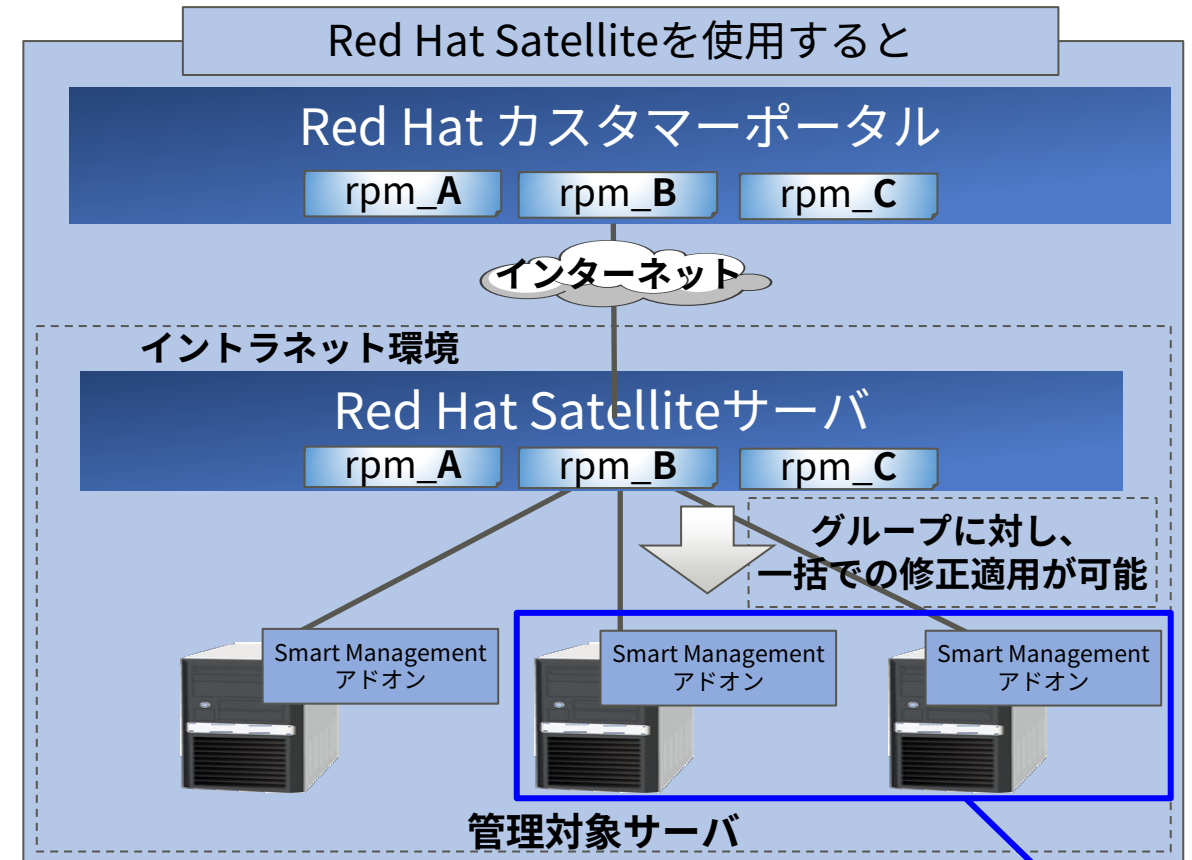
効果 自動で修正を入力してまとめて適用

管理対象サーバをグループ化し、単一のシステムと同様に効率的な修正適用が可能



現状の課題

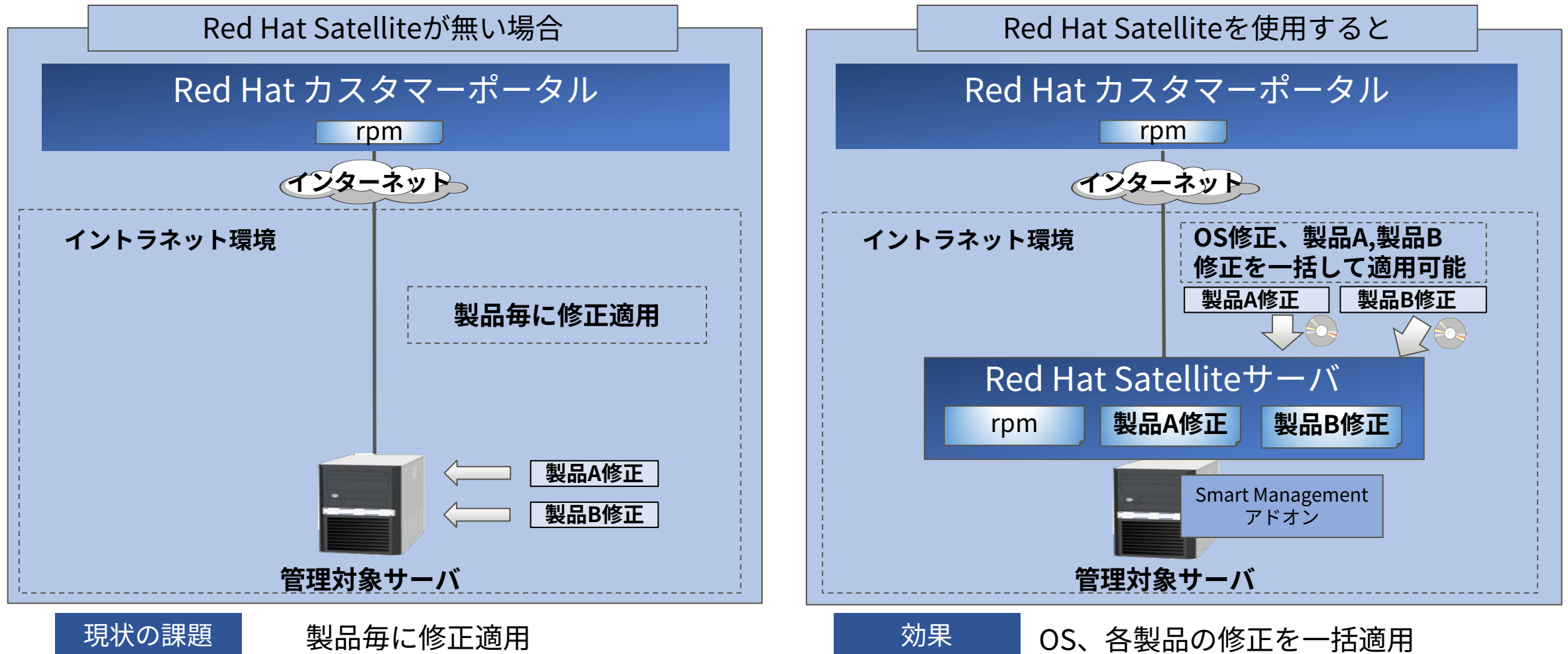
1台1台でオペレーション



効果

グループ毎に一括で修正適用可能

お客様独自の修正もOS修正と同様の方法で適用可能



Red Hat OpenStack Platform (RHOSP)

○概要

- Red Hat OpenStack Platform (RHOSP) は、Red Hat 社が
コミュニティ版OpenStackをベースに開発・販売しているクラウド基盤ソフトウェア

○対象とするお客様

- 中規模から大規模な仮想環境を利用するお客様

○FTIの強み

- 商用環境でのサポート実績
- Red Hat社との強力な協業体制
- ハードからミドルウェアまでワンストップサポートを提供

付録 4 : SLES製品ラインナップ

FTIでのSUSE製品の取り扱い状況

分類	SUSEラインナップ	FJ取扱	備考
SLES	SUSE Linux Enterprise Server (SLES)	提供中	基本製品
	SUSE Linux Enterprise Server for SAP Applications		SAP向けSLES
拡張商品	Long Term Service Pack Support		修正の新規提供期間を延長
	Live Patching		OS再起動なしでセキュリティ修正
	High Availability Extension	Pacemaker, CorosyncによるHA構成	
	Virtual Machine Driver Pack	Windowsゲスト用準仮想ドライバ	
HPC	SUSE Linux Enterprise HPC ^{*1}	応相談	HPC向けSLES
ほか	SUSE Manager		マルチOS対応の修正管理機能
	SUSE Linux Enterprise Desktop	未定	
	SUSE Linux Enterprise Real Time		
	SUSE Linux Enterprise Micro		

*1:15 SP6よりSLES for HPCは独立した製品としての提供はなくなり、代わりにSLESでHPC Moduleを利用できるようになりました。

https://www.suse.com/releasenotes/x86_64/SUSE-SLES/15-SP6/index.html#jsc-PED-7684

付録5：留意事項、その他

- 利用規約遵守について
- お問い合わせ
- 商標

レッドハット社の利用規約を遵守してください

- Red Hat製品をご利用になる際にはレッドハット社の定める利用規約を遵守いただく必要があります。
【利用規約】
 - オンプレ商品の場合：
Red Hat Enterprise Agreement
<https://www.redhat.com/en/about/agreements>
 - クラウド用ゲスト/uSCALE サブスクモデル商品の場合：
Cloud Software and Services Agreement
<https://www.redhat.com/en/about/licenses/cloud-cssa>
- ご契約にあたり、利用規約遵守をご理解のうえご契約くださいますよう、お願いいたします。
- なお、利用規約はレッドハット社により随時改版されます。契約更新時には常に最新の利用規約をご確認ください。

- FTIのLinuxソリューションや、Linux製品についてのお問い合わせは、下記お問い合わせページよりご依頼ください。

Linux情報へのお問い合わせ

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/os/linux/contact/>

- ✓ Intel、インテル、Xeon、Itanium、Intel ロゴ、Intel Itanium ロゴは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ✓ Red Hat、Shadowman logo、JBoss は米国およびその他の国において登録された Red Hat, Inc. の商標です。
- ✓ Linux®は米国及びその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
- ✓ Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Azure、またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ✓ Amazon Web Services、AWS、Powered by AWS ロゴ、[およびかかる資料で使用されるその他の AWS 商標] は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。
- ✓ VMwareは、米国およびその他の地域におけるVMware, Inc.の登録商標または商標です。
- ✓ Nutanixは、米国および他の国々で登録されたNutanix, Inc.の商標です。
- ✓ 本資料中の社名、商品名はすべて各社の商標または登録商標です。
- ✓ 本資料に掲載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示(TM, R)を付記しておりません。



Fsas Technologies